巻頭言

財団法人日本ハンドボール協会専務理事
中澤　重夫



世界選手権を起爆剤に

皆様すでにご承知の通り、来年5月17日より6月1日まで、熊本に於いて第15回男子世界選手権が開催されます。この大会には世界の予選を通過した強豪24カ国が集い、世界チャンピオンを目指し、ハンドボールのスーパープレーが展開されるのです。男子世界選手権がヨーロッパ地域から離れて開催されるのは初めてであり、日本にとっても100年に1度かもしれない世界のスーパープレーを目の前で観戦できる絶好のチャンスでもあります。この機会に少なくともハンドボールに関わる人々はこのような世界選手権を観戦し、このすばらしさを広く多くの人に伝え、また、次世代の財産となるようにして戴きたいと願っております。このために日本協会ではいくつかの事業を企画し、実施に移して行こうとしております。

まず、強化については日本リーグチームから強力なご支援を戴き、世界選手権に向けて選手強化に邁進していることは皆様ご承知の通りでございます。

次にハンドボール人のみならず、広く多くの方々にこのすばらしい大会が日本で開催されることを告知するための広報活動も着々と展開されつつあります。この8月からはフレンドシップ'97として広報活動の意味を含め開始しました。このフレンドシップ'97の目的については趣意書に述べているとおりでございます。皆様のご厚志が多く集まれば集まるほど多岐にわたる事業展開が可能となり、世界選手権を盛り上げる礎となることは間違いありません。また、全国紙への広告の掲載、ケーブルテレビでのPR、電車等への中吊り広告などつぎつぎに計画を進行して参ります。なにとぞこの事業に1人でも多くの方に参加していただきたくお願い申しあげるものであります。

さらに、参加型の企画と致しまして、熊本におけるフェスティバル大会、指導者、レフェリー、研究者などのための各種研究会、研修会も企画いたしております。また、大会期間中にそれぞれに地方でも世界選手権に連動した集会等を計画していただけるよう都道府県協会にお願いして行く所存でございます。

日本協会と致しましてこのように多岐にわたる企画を推進しておりますが、これらの企画に皆様方の参加がなくては世界選手権共々盛上りを欠き成功はおぼつかなくなります。

世界選手権をすばらしい大会として大成功させ、次々と生まれてくるであろう次世代の人々に夢を与えるため、感動を後世に伝えて行こうではありませんか。そのために、ハンドボーラーの方々に周辺を巻き込んでなにか1つ以上の企画に参加して戴けるよう切にお願い申しあげる次第であります。

協会だより

8月度常務理事会

【日　時】8月31日(土)
10：30～17：00
【場　所】代々木体育館第2会議室
【出席者】中澤専務理事、常務理事8名、監事、参事各1名、事務局2名

1、'97男子世界選手権関連事項について

(1)世界選手権大会のケーブルテレビの実施について合意した。自転車振興会、日本財団からの収入はメディア広告関係以外には活用できない。

ＮＨＫとの放映権契約について交渉進捗中。

(2)世界選手権大会最終組み合わせ抽選会の報告があり、期日は平成8年12月6日(金)、会場は未定。招待客は日本協会がリストアップ、実行委員会に提案。試合スケジュールについては3案あり検討する。開幕第1試合には強化委員会の意向として不出場。

タラフレックスについて日本代理店と折衝。

熊本事務局担当者との合同会議を10月5日に開催することで調整。

(3)世界選手権大会第2号ポスターが決定。10月29日に（大会200日前）全国紙におけるＰＲを実施等広報関係報告あり。

(4)オフシャルエアラインの交渉について報告あり。世界選手権特別号をつくり、各県協会やハンドボール関係者等に購入を促進するよう早めに具体化し取り組むことの提案があった。

(5)組み合わせが決定後は外国チームの対応については強化関連は強化委員長、それ以外は国際担当が日本の地域やチームの受け入れを含み熊本事務局と調整。

フェスティバル大会について準備が進んでいることの報告あり。

(6)レフェリーセレクションコースの経費について報告あり。

世界は平成9年8月1日より新ルールを実施するが、日本としてはルールの解釈、問題点を検討して、平成10年4月1日より実施することを了承。世界選手権は現行ルールで実施することを確認。(タイムアウトについては検討事項)

ゴールポスト、ゴールネットに関して報告があった。

(7)ドーピング問題に関して報告、了承。国際医科学ハンドボール学会について、経緯説明、推進状況等報告があった。

集計システムについてスケジュールの説明があり、公式スポンサーの確認をすることとした。

(8)フレンドシップ'97について趣意書等の配布について説明があった。常務理事等役員に配布の依頼があった。

(9)ＡＤカードの発行について慎重にする。世界選手権大会ＰＲ用広告について今後開催される大会プログラムに掲載するよう大会事務局へ依頼する。

2、選手強化関連事項について

世界競技水準について要点の報告があった。

ノルウェーカップへの出場が不可となったため、スウェーデンチームを迎えての国際大会に事業変更することを了承。11月26日～12月3日、大阪、熊本、神戸(予定)

'97ジャパンカップ広島大会の実施について了承。

その他強化事業、関連会議の報告あり。

3、第1回ジャパンオープントーナメント報告

運営についての報告。予選状況、参加チームについて報告。

優勝の香川選抜について、全日本教職員大会で優勝し全日本総合への出場が先に決定しているため、2位のケー・エフ・シーが繰り上げ出場することを確認。

4、報告事項

(1)アトランタオリンピック視察報告

試合結果、および戦略・戦術等、今後の日本チームの対応について報告があった。

試合会場規模、ゴールポスト・ネット、公示時計、作戦タイムについて報告。

(2)日本リーグ関連事項

日本電装の社名変更に伴い10月1日よりチーム名を「デンソー」に変更する届けがあり、了承した。

第21回日本リーグ記者発表報告

(3)インターネット準備委員会報告。

(4)オーナー会議開催について日程の変更を了承。

(5)荒川清美氏オリンピックオーダー受賞祝賀会について報告。

(6)第52回国体参加チームブロック割当数が承認されたことの了承。

(7)夏期各種大会報告。

(8)小学生専門委員会報告については次回議題とする。

荒川清美氏のオリンピックオーダー銀賞受賞を祝う会盛大に開かれる

㈶日本ハンドボール協会顧問荒川清美氏のオリンピックオーダー銀賞を祝う会が、平成8年9月21日(土)に東京ガーデンパレスにおいて日本陸上競技連盟会長青木半治氏を始め全国から多数のご出席を仰ぎ開催されました。

荒川氏は、昭和24年に日本ハンドボール協会の理事に就任以来、日本体育大学教授として公務多忙の中、日本ハンドボール界発展のため並々ならぬご貢献をなされ、昭和42年から理事長として日本リーグの発足、日本ハンドボール協会の財団法人化に多大なご尽力をなされました。さらに、昭和56年法人化に伴い、副会長として数々のご功績を残されました。



この間、男子ナショナルチームを1972年のミュンヘンオリンピックからモントリオール・ロサンゼルス・ソウルへと連続出場させ、女子ナショナルチームもモントリオールへ出場するなど、自ら先頭に立って行動しハンドボール競技を通してオリンピックの発展に幾多のご努力をされてこられました。



また、日本オリンピック委員会では、昭和52年から常任委員、平成元年よりは同委員会の監事を歴任、平成3年からは名誉委員にご就任なされ、日本スポーツの総合的な発展に対するご活躍を通じてオリンピックの目的のために、数々の優れた貢献を果たしてこられました。

これらのご活躍に対し、荒川氏に国際オリンピック委員会よりオリンピックオーダー銀賞が授与され、先般岸記念体育館に於いて開催のオリンピック記念デーに、サマランチ会長指名のIOC委員猪谷千春氏より手渡されました。

記念パーティーは、㈶日本ハンドボール協会中澤専務理事による荒川氏の業績についての説明と挨拶で開会となった。続いて来賓として、JOC総務委員長上田宗良氏、JOC名誉委員青木半治氏、IOC委員岡野俊一郎氏などが次々と挨拶をされた。

青木氏はハンドボール協会が独立する前は陸上競技連盟の一部門としてあったこと、荒川氏のご婦人が同席されていないことを残念に思うことを述べられた。

岡野氏はJOC委員として荒川氏とともに苦労をした思い出話を語られた。

来賓挨拶の後は、荒川氏の門下生や、ご友人など多くの日本ハンドボール界の重鎮の方々となごやかに歓談をなされた。

また、長野オリンピック放送機構マネージング・ディレクターの杉山茂氏もお忙しい中記念パーティーに駆けつけられ、財団法人化、日本リーグ発足当時の荒川氏のご活躍について述べられた。

最後に前㈶日本ハンドボール協会監事松本重雄氏の手締めによって散会となった。

第15回世界選手権・熊本

ご協賛のお願い

世界選手権フレンドシップ'97

拝啓　時下益々のご靖勝のこととお慶び申し上げます。平素は財団法人日本ハンドボール協会の事業運営に格別のご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、皆様既にご高承のとおり、平成9年(1997年)5月17日から6月1日まで、熊本県において「97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本」が開催されることになりました。男子世界選手権大会が本場ヨーロッパの地から離れて開催されることは初めてのことであり、日本ハンドボール界と致しましてもこの重要且つ貴重な大会を是非とも成功させ、歴史に残る立派なものにしなければなりません。

このような有意義な大会を成功に導くために、㈶日本ハンドボール協会、1997年男子世界ハンドボール選手権大会組織委員会は大会運営に対し両輪として総力を挙げて開催準備を進めているところであります。本事業は大会開催費、広報宣伝他多額の費用を要する大事業であり、本協会としても運営資金の調達に努力し、既に日本リーグ加盟チーム各社から特別支援金を納入して頂いてるところでございます。同様に、日本国内の各企業に寄付金、広告・協賛金のお願いをし、本事業の円滑な推進のための財源確保の努力しているところでございます。

財政的な基盤を固めると共に、本協会は大会開催にむけて今後独自の各種事業を展開していくことが求められております。本大会に出場する全日本チームの支援活動としての激励会の開催、平成9年4月の大会直前に行われる国際試合を壮行試合として大会のムードづくりをする企画実現、開催地の熊本県への観戦動員計画としての講演会、イベント等を含む大集合作戦の展開事業、世界選手権開催時期に同調して全国で同時開催する世界選手権応援大集合作戦の実現など、より充実した大会を支援する運営のための基金が必要となります。既に日本リーグ加盟チーム各社、財界を基盤とする各企業、関係団体には多額のご援助をいただいているところでございます。

本協会と致しましても、ブロック協会、都道府県協会、連盟のいわゆる身内としての多くの全国ハンドボール関係者の個人の皆様方似是非ともご援助、ご協力をお願いするところでございます。何卒、趣旨をご理解の上、皆様方のご援助を賜りたく心よりお願も申し上げます。

敬具

★専用払込み取扱票(郵便振替)が本誌にはさんであります。

●世界選手権フレンドシップ'97

募金金額（個人）

　　1口1万円　　1口以上

記念品贈呈

　1、'97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本記念特製テレホンカード

　2、㈶日本ハンドボール協会機関誌　世界選手権記念特集特別号（大会参加国決定後発行）

　3、感謝状の贈呈および機関誌に氏名の掲載

世界選手権フレンドシップ'97

協賛者ご紹介

＊1996年10月5日現在　114名

(大阪府)東　嘉伸
(三重県)笹川ハンドボール少年団
(三重県)栗本士郎
(東京都)佐藤佳子
(大阪府)木田武夫
(熊本県)熊本クラブ
(東京都)江成元伸
(愛知県)中島正貴
(岩手県)佐藤睦朗
(青森県)太田尚充
(青森県)鳴海　満
(青森県)川島卯太郎
(鹿児島県)井料たか子
(青森県)福士義昭
(青森県)渡辺信行
(神奈川県)真田　元
(大阪府)四方洋子
(福島県)中島寿美
(東京都)兼子　真
(茨城県)筑波大学ハンドボール部OG会
(茨城県)河村レイ子
(茨城県)藤沢邦彦
(高知県)岡本憲和
(大阪府)森本正毅
(青森県)滝口　太
(熊本県)村上建二
(神奈川県)村松英美

(大阪府)望月伸三郎
(神奈川県)近久紀人
(長野県)青木　崇
(愛知県)宇津野年一
(愛媛県)越智　武
(静岡県)鈴木義紀
(茨城県)田中汀子
(大阪府)緒方嗣雄
(福岡県)田中　守
(広島県)峠野光伸
(群馬県)伊崎克巳
(福岡県)松本浩志
(茨城県)小板橋潤
(東京都)高橋健夫
(岡山県)藤井俊朗
(愛知県)早川弘三
(愛知県)村木啓作
(青森県)諏訪正徳
(栃木県)益子房之助
(福岡県)古賀信男
(三重県)田村金子
(徳島県)半田忠史
(愛知県)角　紘昭
(兵庫県)西澤倫雄
(兵庫県)殿水幸雄
(兵庫県)長　靖麿
(千葉県)木内久美子
(千葉県)木内兵太郎
(愛知県)梅村忠雄

(大阪府)小森園多恵子
(山口県)白井謙次
(大阪府)山中善之祐
(兵庫県)小島正男
(東京都)田島悦子
(石川県)二口昭夫
(石川県)米谷恒洋
(石川県)荷川取義浩
(栃木県)大出治男
(青森県)藤本　武
(青森県)坪谷雅幸
(宮城県)千田文彦
(埼玉県)井田一博
(大阪府)幸田良一
(栃木県)岸　裕行
(栃木県)山下勝司
(埼玉県)井上素行
(愛媛県)河平武夫
(福岡県)稲積茂紀
(兵庫県)大原康昇
(茨城県)北村善夫
(兵庫県)花房　保
(福島県)関川正道
(大阪府)塩川正十郎
(栃木県)高崎　弘
(大阪府)早川真澄
(兵庫県)岡田茂夫
(愛知県)横地宇吉
(石川県)川端孝一

(高知県)岡村博三
(東京都)岩本任弘
(高知県)清水　修
(高知県)熊沢徹郎
(栃木県)田澤孝一
(栃木県)上野喜美
(広島県)浜本忠志
(広島県)坪根敏宏
(広島県)加川　厚
(広島県)杉山裕一
(広島県)小沢勝利
(広島県)山口　修
(広島県)松谷丈裕
(広島県)飯田一郎
(広島県)高田浩志
(広島県)中山　剛
(広島県)田中雅彦
(広島県)多田恵久
(広島県)松本　暢
(広島県)B.R.BRAMANIS
(広島県)堀田敬章
(広島県)河原隆雅
(広島県)藤永　清
(広島県)津川　昭
(千葉県)山上修二郎
(東京都)高橋英次
(愛知県)稲石三二
(福岡県)篠崎省吾
(大阪府)神田　清

第5回アジア男子ジュニア選手権大会に参加して

選手団長　住尾　勉

6月上旬、中沢専務理事より8月20日からのアジア男子ジュニア選手権大会の団長として同行してほしいとお話をいただき、不安な気持ちでお引き受けいたしました。

全国高校総体終了後、心の準備もできないまま8月17日、大阪で合宿練習の選手たちに合流し、18日午後16時に関西国際空港に集合しました。選手の中には、西日本学生選手権大会終了後着替えもそこそこに集合したものもおり、役員、選手、帯同審判、総勢26名は18時10分、全日空機で一路ドバイ(UAE)に向けて出発しました。

今大会もアラビア半島のアラブ首長国連邦(UAE)と聞き、中東についての知識もないまま遠征となり、周辺国の政情からみて何が起きても不思議でない状況と思いながら、また、宿泊先もわからずの出発で不安な気持ちいっぱいでしたが、ドバイ空港では、UAE協会の役員などの出迎えを受け、早速ホテルに案内され、UAEは政情が安定し治安も良いと聞きほっと安心しました。

■国際情勢(アラビア半島)について

いずれまた中東で開催があるやに聞いておりますので参考までに上げておきます。当地では、突然の会議または打ち合わせ等の知らせがあり、時間なども変更があったりで非常に困りました。また、UAEのIOC委員会の訪問では、プレゼント交換があり、何もいらないといわれていたのですが各国の団長は共に持参しており、恥ずかしい思いをしたり、また急に大会参加者全員を地元役員などのレセプション、団長の記念品交換などアラブ的儀式で時間も1時間以上も遅れ選手たちは明日試合があるのに困ったことでした。

最初に書いておかなければいけないことでしたが、開会式前日の団長・監督会議で試合時間の変更、プログラム等もなし、IDカードの写真の取り直し、また年齢の問題ですが、中東諸国には制限年齢より上の選手も何人もいたように見受けられました。

記念品等については、私自身も多少用意をしておりましたので、何とか間に合う始末でした。

今後は、協会で交換品(ペナントの他)プレートなど用意されてはいかがでしょうか? 中東での大会では、日本で考えられないことが起こりますので十分留意された方がよいかと思います。

■試合・審判について

今回の参加国は、最初9ケ国であったものが、出発直前になって10ケ国と知り、これらを3グループに分けて予選リーグを行い、上位2ケ国が準決勝トーナメントに進み、準決勝で負けた国は4~6位決定戦に回り、予選リーグ3位の国は7~9位決定戦に出るという順位決定戦方式が採用されました。

日本は、予選リーグBグループに入り、バーレーン、中国との対戦となりました。

今回は、前大会の経験から早めに入り大会に臨みました。

試合の結果は、別記の通りですが、全試合を通して、日本は、高橋監督を中心に玉村、松井両コーチの指導のもと小藪主将を先頭に全員一丸となって、アグレッシブな戦いをし、好ゲームの連続でした。この中でも高校生3人(190cm台)は、次回の主力選手として大いに期待したい。

さて試合の内容については、中東的な審判で判定が優先され、リードまた接戦になるとまず退場、警告が出る、または7mスローなど。このような環境で試合をせざるを得ない選手たちには非常に気の毒でした。

第1戦、第3戦共に先に述べた状況では勝つことは困難でした。特に第3戦は、地元UAEで、クロアチアのペアが笛を吹いたが、点差を見れば10点差ではあるが、判定が逆になるケースが多く、選手たちの集中力が切れてしまった。

極東同士の場合は、スムースであったと思います。中東地区同士の対戦では、どの試合でを試合終了後、審判員は警察官に囲まれながら試合場を出るという状態で異様な感じがしました。韓国対サウジアラビア戦の審判員は、試合後帰国したと聞いております。

■今後のジュニア強化対策について

今回出場した選手たちは、セレクション合宿、直前の強化合宿だけ、さらにこの時期に東西の大学選手権大会等で参加できなかった選手などの現状を改善し、日本ナショナルの予備軍である選手たちの今後の育成を図るべき協会サイドも早急な対策が必要と考えます。

現にアラブ諸国では、ヨーロッパからコーチを呼び、また1ケ月~3ケ月くらいのナショナルジュニアとしての海外遠征をしているという話を聞き、日本の立ち遅れの感がいたしました。

日本も帰国して間もなく高橋監督を中心に全国から選手を集めて次回のためのセレクション合宿をしており、190cm台の大型選手が何人か集会しておると聞いております。どうかジュニア選手が多くの海外遠征合宿ができますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、協会、関係連盟の皆様、また今回参加の役員、選手、帯同審判員の先生方、橋本ドクター、豊嶋トレーナー、エモックの鈴木さん、今大会のためにご尽力をいただき心からお礼申し上げます。

遠征報告日誌から

[8月18日]
関西空港出発。NH151便。

[8月19日]
ドバイ空港到着。午前中休養。
午後、近くの体育館で約1時間30分トレーニング。全員体調は良好。

[8月20日]
午前中、1時間トレーニング。
17時30分、シャルジャ（ドバイ離町）クラブチームと練習試合。

日本22（10−13 / 12−11）24SHALJAN

久々の国際試合のため、スタートから緊張気味。ボールが手につかず、ミスの連続で大会用に作ったパターンも不発。ハーフタイムで檄をとばし後半ようやくリズムに乗るが時期すでに遅し。右インナーに不安を感じつつ本番に挑む。

[8月21日]
11時から1時間トレーニング。
昨日の反省と明日から本番が始まるということで、気持ちが盛り上がり、気合いの入った1時間であった。
18時から開会式。

[8月22日]
予選リーグ第1戦。

日本14（7−7 / 7−9）16バーレーン

速攻に甘さがあり、ミスが目立った。後半たち上がり、2点リードした後、ポイントが取れず遂にミスから同点にされ、前回からエース・アタッカーで出場していた4番にミドルシュートを打たれ、結局2点差で惜敗。（瀧川、鈴木、奥野、大村以外出場）

[8月25日]
予選リーグ第2戦。

日本30（14−5 / 16−12）17中国

開始早々、速攻で連続ポイントし優位に立つ。中国に退場者が出た間に、フォーメーション等で加点、差を広げた。出場者全員得点の活躍。特にセンター小薮、インナー谷口・古家、GK宇野などの活躍で楽勝の一戦であった。（安斎・谷島・千石・大村以外出場）
以上、予選リーグCグループ1勝1敗で2位。Bリーグ1位のUAEとの対戦が決定した。

[8月26日]

日本24（12−18 / 12−16）34UAE

この試合に勝てば、1~3位が決定する大事な一戦。しかし、開催国の有利性をフルに発揮、勝てないということを痛感した一戦であった。前半、15分過ぎに同点にされた後、不正交替で日本チームの退場（その間に逆転される）。正規の交替をしているにも関わらず退場。何とも言いようのない後味の悪い試合であった。しかし、能力的には点差ほど開きのある国でなかった。（瀧川・鈴木・千石・長澤以外出場）

[8月28日]
4~6位決定戦。

日本25（10−14 / 15−16）30韓国

韓国は、日本がUAE戦で味わされた以上のことをサウジ戦で味わされ、敗者となった。そのショックから立ち直れないまま、日本戦。以上の結果である。しかし、点差以上に韓国の個人技が勝っていることを痛感した。（宇野・鈴木・下川・長澤以外出場）

[8月30日]
4~6位決定戦。

日本25（11−13 / 14−13）26バーレーン

今大会最後ということで、選手全員気合いが入る。試合内容は、前後半ともに優勢で進むが、点数は59分58秒まで一進一退。残り2秒同点、またもやエース4番のフリスローシュートがゴールイン。結局無念の6位であった。（安斎・谷島・鈴木・奥野以外出場）
最終順位は以下の通り。
①UAE②サウジアラビア③カタール④韓国⑤バーレーン⑥日本⑦オマーン⑧イラン⑨中国⑩クウェート。

[9月2日]
ドバイ空港出発。

[9月3日]
関西空港到着、関西空港にて解散。

日本チーム個人得点表

No.	名　前	8/22 BAR	8/25 CHINA	8/26 U.A.E.	8/28 KOREA	8/30 BAR	計
1	奥野　誠						
12	宇野貴博						
16	千石栄治						
2	鈴木信次		1				1
3	谷口　了	5	4	7	4	11	31
4	小藪憲次	1	11	9	5	4	30
5	井上博人	2		2	5	3	12
6	下川真良	1	4	2		3	10
7	窪小谷貴浩		3		2		5
8	大村佳史			1	1	1	3
9	前田誠一		3	1		1	5
10	谷島正孝	2		1			3
11	安斎　稔	2		1			3
13	古家雅之	1	1		5	2	9
14	瀧川義史				3		3
15	長澤好一		3				3
計		14	30	24	25	25	

けて更なるステップアップを

全日本男子チームコーチ
田口　隆

OF面において、当初からのチームの狙いとする確率の高いポジションからのシュートを打つことに関し、シュートの比率として、ロング・ミドル4:6サイド・ポスト・カットイン・7mTという結果が得られ、選手個々が考えたプレーをしたものと言えます。またシュート成功率としても、ロング・ミドル47･3%、サイド他71･3%、全体としても61･7%という数字を残すことができました。DF面においても、今遠征を通し6-0シフトをひき、背の高い選手、重い選手に対して十分に対抗することができました。(9m付近からのシュートに対するGKの阻止が多くあった。

●全日本男子ハンドボールチーム個人成績

チーム番号	トレーニングマッチ			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	Oss	Weil	Korn	Dutt	Nett	Ami	Gros	Mon	Ade	BEL	CUB	Kau	TOTAL
魚住和彦	5/5	3/5	3/4		2/3		4/7	1/3	2/3	0/1	2/4	1/3	23/38
冨本栄次	2/5	4/6	4/7	3/7	2/4	2/5	3/9	1/3	6/11	1/3	3/4	2/9	33/73
森本彰宏		1/3	3/3	0/1	1/2	0/1		0/1			2/3		7/14
泉　光介													0
中山　剛	2/3		1/2	8/11	3/5	1/1	1/2	2/3	2/5	3/3	2/3	5/8	30/46
岩本真典	3/5	4/6	6/8	3/9	2/5		3/7	3/6	6/9	1/5	5/8	5/6	41/74
末岡政広	1/2	5/6	1/1	3/4	4/6	6/6	6/8	7/10	2/3	9/10	4/5	6/8	54/69
藤井孝志	2/2	2/3	2/3	1/2	1/3			3/7	1/2	6/7	3/3	1/1	22/33
杉山裕一		2/2	2/2	1/1	3/3	2/2	3/3	1/1	0/1		1/1		15/16
田中　茂	1/1				1/2	2/2		0/3	1/2	0/2			5/12
茅場	3/5	0/3	1/3			0/1	2/2	2/3		0/3	1/1	2/2	11/23
山口　修	3/3	1/1	3/4	1/1		1/1	2/2		1/2	1/1	1/1		14/16
吉田　聡					0/1								0/1
佐々木教裕													
橋本行弘				1/1				1/1	1/1				3/3
四方　篤													
TOTAL	22/31	22/35	26/37	21/37	19/34	14/19	24/40	21/41	22/39	21/35	24/33	22/37	258/418
													61.7

※チーム番号は、9頁のチーム名うしろの番号に対応します。

[今後の課題]

まだ依然としてイージーミスも多く、それからの相手攻撃を許すケースがある。その為、セットDFではよく守られているものの、失点が多くなってしまいました。それについての対策として、精神面での安定が大きなポイントとなってくるとの考えで、選手個々に自分のプレーに対しての注意点として、各10ポイントを挙げさせた。そして、それを朝・夕またはトレーニング前後に読み返すことを指示し、潜在的なプレーに対する意識の改革に現在取り組んでいる最中です。

また、技術的なこととしては、今遠征でシュート確率は全体としては悪くはなかったものの、サイドシュートの成功率は50.8%という数字しか残せかなった。これは、日本とヨーロッパのGKのプレースタイルが違う為、今までのシュート技術では通用しない部分がありました。(日本のGKは感覚でシュートに対して早く動くケースが多いが、ヨーロッパの優れたGKはボールの出所を探し、最後の瞬間まで大きく動くことはない。)

そして、体力的な面としては更なる向上が必要であるが、国内のスケジュールがシーズンに入る為、維持型のメニューに切り替え実施する。その後来年から再び向上を目指したトレーニングへと切り替えていく予定です。

以上のように、今遠征で国内合宿の成果を実践で試した訳ですが、今後の強化計画のうえでも、今回の反省を十分に活かし、世界選手権に向けて更なるステップUPをしていきたいと考えています。



最優秀キーパー賞を獲得した橋本行弘選手(左側)

全日本男子・ヨーロッパ遠征報告

世界選手権大会に向

全日本男子チームは、8月24日から9月10日までヨーロッパ（ドイツ、フランス）に遠征いたしました。ここにその内容を報告いたします。

[遠征期間]

1996年8月24日～9月10日。

[遠征先]

ドイツ、フランス。

[参加メンバー]

オルソン監督以下23名（選手16名、ドクター2名、トレーナー1名、コーチ2名、指導普及1名）。(メンバーの詳細は10月号を参照ください)。

[今遠征の目標]

・プレーへの考え方として、今遠征を通じ、今後常にポジティブな考えをすることにより、ミスを恐れずにプレーする(今までのネガティブな考え方を是正する)反面、常に考えたプレーに徹し、リスクの高いプレーを避け、安全なプレーをすることに集中する。

・セットOFでは、6-0DFに対しての攻撃力をつける。その時スピードのある連続プレーを展開する。

・セットDFでは、6-0DFをひき、6m～9mのスペースを守ることに集中し、激しい当たりをする。

[試合結果]

"Sparkassen-Cup"

☆予選リーグ

日本	21	(10-11 / 11-9)	20	HSG Dutenhofen/ Munchholzhausen
日本	21	(11-10 / 10-9)	19	TUS Nettelstedt

☆3位決定戦

日本	24	(11-13 / 13-15)	28	TV Groβwalstadt

◆最終順位

① TUS Nettelstedt（ドイツ） ②
② TV Huttenberg（ドイツ）
③ TV Groβwalstadt（ドイツ） ④
④ 日本
⑤ HSG Dutenhofen（ドイツ） ①
⑥ ZMC Amicitia Zurich（スイス） ③

8月28日～31日にドイツのHuttenberg にて開催された「Sparkassen－Cup」に出場しました。大会は全日本チームを含め6チームの参加で、2グループでの予選リーグの後、順位決定戦が行われました。

全日本は予選リーグにおいて1勝1敗という成績でグループ2位となり、3位決定戦に回りました。3位決定戦ではドイツの強豪TV Groβwalstadtと対戦し、終盤まで接戦を演じたものの、惜しくも敗れ、第4位という結果に終わりました。

また、前試合終了後の表彰式では、最優秀GK賞に橋本行弘選手が選ばれました。

[試合結果]

"Intercontinental-Cup"

☆予選リーグ

日本	21	(9-19 / 12-11)	30	MONTPELLIER (FRA)	⑤
日本	22	(13-17 / 9-15)	32	ADEMAR LEON (ESP)	⑥
日本	21	(13-8 / 8-12)	20	BRUXELLES (BEL)	⑦

☆9-12位決定予備戦

日本	24	(14-14 / 10-14)	28	CUBA	⑧

☆11・12位決定戦

日本	22	(13-8 / 9-13)	21	KAUNAS (LIT)	⑨

Huttenberg での「Sparkassen－Cup」を終え、9月2日～8日にフランスにて16チームが参加し、開催された「Intercontinental－Cup」に出場しました。

まず最初に4チームずつ4組みに分け、予選リーグを行いました。我々全日本チームは、フランス、スペイン、ベルギーのチームと同組で戦い、1勝2敗という結果で3位となり、9～12位決定戦へと回り、隣組3位のキューバと対戦し、前半互角に試合を進めたものの、後半中盤以降に崩れ、惜しくも敗れました。その結果、11・12位決定戦に回ることとなり、リトアニアのチームと対戦しました。この試合は、前半開始から全日本のディフェンス・オフェンス共に良く、相手を圧倒し、終盤追い上げられたものの今遠征最終戦を勝利で飾りました。

◆最終順位

① ADEMAR LEON(スペイン)
② ASNIERES(フランス)
③ IVRY(フランス)
④ GRANOLLERS(スペイン)
⑤ MONTPELLIER(フランス)
⑥ CRETEIL(フランス)
⑦ BELGRADE(ユーゴ)
⑧ BRAGA(ポルトガル)
⑨ CELJE(スロベニア)
⑩ CUBA(キューバ)
⑪ 日本
⑫ KAUNAS(リトアニア)
⑬ GOTEBORG(スウェーデン)
⑭ SAN ANTONIO(アルゼンチン)
⑮ BRUXELLES(ベルギー)
⑯ ALGER(アルジェリア)

[成果]

第2回世界女子学生選手権大会に参加して

日本善戦するも8位

常に世界と対戦できる態勢づくりを

団長　久保茂雄

ブルガリアの第2の都市ベリコタルノボで開催された選手権大会には、現地に到着するまで3回の航空機の乗り継ぎと4時間半余のバスという丸2日間の強行軍であった。しかも出発の前日まで東日本学生選手権を金沢で戦い、その足で直接成田へ乗り込んで来るという苛酷な状況でもあった。

最初の参加申し込みが14ケ国だったが、結局現地に到着すると10ケ国の参加で、むしろヨーロッパ学生選手権といった色彩に東洋から日本と台湾が参加したという印象の方が強かった。そんな中で私は特にドイツの姿がなかったことに一抹の寂しさを覚えた。

日本チームは予選リーグA組となり、ルーマニア、ハンガリー、ポーランド、台湾の対戦となり、ハンガリーに1点差、台湾にはほぼダブルスコアで勝利をおさめたものの、第1戦のポーランドに接戦の末、競り負け、第3戦のルーマニアには見事なまでに叩かれた。

結局、ナショナルを揃えたロシアが他を寄せつけぬ強さを示した。第1回の選手権で、低迷したポーランドはナショナル選手を含めて、今回は2位を確保した。順位決定戦では地元ブルガリアに星を落とし、再度ハンガリーと対戦することとなり、第2延長の末、今度は1点差で雪辱される結果となった。

今回はナショナル選手をかかえたチームが上位を占め、単独チームの参加国であるノルウェー、台湾が下位に甘んじる形になった。第1回の戦績より落ちたことに私達は心苦しいものを感ずるが、選手たちは一生懸命戦ってくれたので、言い訳がましいことはよしたい。1位のロシアと下位の単独チームでの参加国を除けば実力は伯仲して試合の流れを呼び込んだチームがその順位を上位としたという感じであった。それにしても、ヨーロッパのチーム全体にやや停滞という印象をもったのは私の独断であろうか。

大会の組織委はかなりの準備と成功への意気込みを感じたが、こういう大会を日本で開催するということは、確固たるスポンサーがつくか、有力自治体が主体とならなければ、おそらく不可能ではないかという懸念を抱いた。まず物価や貨幣価値からして開催国ブルガリアでは約10分の1位と考えてよい。その開催国においても大差があるとは考えにくい。日本でと考えると滞在費や交通費をとってみても、多くのヨーロッパ諸国の参加はまず経済的な面から不可能ではないだろうか。

今回の大会での収穫は、同じホテルに約10日間滞在し（食事は日本人にあまり合わない）フランス、ハンガリー、ルーマニア等のチームと同宿だったので選手は勿論、役員もお互いに交流を持ち、親密になり得たことであった。更に組織委主催の各国団長レセプションとか、市庁表敬訪問もあったが、ブルガリアの言葉をまず英語で、続いてフランス語の通訳という2ケ国の形で行われたのも興があった。

結論として、私は学生の世界選手権は当分、おそらく男女ともにヨーロッパ地域で開催されると思われるが、開催国及び参加国が快く日本のチームを受け入れてくれる姿勢に呼応して、この大会には継続して参加することが何よりも望ましいことである。したがって、全日本学生連盟としては毎年、その年のベストメンバーによる選抜チームを組み、強化することが大切であり、トップとしての体力の充実と実力の向上を目指し、常に世界と対戦できる態勢を整えておくことがあらためて重要な課題であると痛感した次第である。

戦績

〈予選リーグ〉

ポーランド24（12－10、12－10）20日本

【戦評】予選リーグの初日が休みだったので、前日ロシアと練習ゲームを行い、外人選手に対する感覚を少しでも経験できたのは貴重であった。初戦に対する緊張感や前日の貴重な体験が功を奏し、上々のスタートを切った。ポーランドには広島でのジャパンカップに参加したナショナルの選手がいるにもかかわらず、日本は素早いパスからカットイン、サイドシュートなど梶田、辻らで加点し一歩も譲らない展開であった。特に防御がすばらしかった。素早い前方へのつめやそこでの1対1が確実に行われ、相手に自由な間合いを作らせなかったのが善戦できた原因でもあった。さらに、池原が5本の7mスローをすべて決めたのも評価できる。

日本32（15－11、17－5）16中華台北

【戦評】前半、中華台北の頑張りにあったことや、勝たねばならないという過緊張からかミスが目立ち、4点のリードしか奪えなかった。しかし、後半は相手の足が止まっ

たことに加え、攻守にリズムが生まれ、速攻や遅攻が思うように決まり後半は圧勝であった。

ルーマニア37（20－7 17－17）24日本

〔戦評〕ルーマニアのビデオを見て相手の中心選手を確認したにも関わらず、想像以上の高さとスピードに翻弄されてしまった。立ち上がりのスタートに失敗してリズムが悪くなり、ミスが続出してしまった。後半、梶田を中心にして日本本来のスピードを生かした攻撃や防御が行われ、一歩も譲らない展開であったのは明日のゲームにつながるものであった。

日本28（13－13 15－14）27ハンガリー

〔戦評〕ようやく外人選手に対する感覚やレフェリーの笛にも慣れてきた。ハンガリーは中華台北に勝っただけであったので、この一戦にかける日本の意気込みはすばらしいものがあった。相手が5：1防御を採用したこともあったが、梶田からの素早いパスで左45度からは裕や日下部が、右45度では山口かカットインやサイドへのずらしパスが決まり、申し分のない攻撃であった。

〈順位決定予備戦〉

ブルガリア31（16－13 15－12）25日本

〔戦評〕このゲームは翌日の順位決定戦につながる大事な試合となることから、選手全員気合いを入れて臨んだが、ミスが多く立ち上がりのスタートでつまづく展開となった。それでもセンターから個人技で梶田が踏ん張り、さらには阿部とのポストプレーが決まり、前半3点差のビハインドで終了した。後半の立ち上がりに望みを託したが、逆に相手のポストプレーが決まり、傷口を広げてしまい、逆転できなかった。

〈7・8位決定戦〉

ハンガリー28（11－8 10－13 3－3 4－3）27日本

〔戦評〕ハンガリーが帰国の飛行機の都合で朝8時空という厳しいゲームを余儀なくされた。相手も同じ条件だからと頑張らせたが、スタートがまずく、逆に相手に3点差をつけられてしまった。すでに戦っているチームなので相手の攻撃が読めると見込んだが、体格的なハンディをなかなか克服できない歯がゆさがあった。後半頑張り残り10分では逆にリードする展開になったが、相手も踏ん張り同点で終了した。第1延長でも決着がつかず、第2延長で逆転され、残り10秒で速攻によるノーマークシュートをはずしてそのままイタムアップとなる残念なゲームであった。

〈9・10位決定戦〉
ノルウェー　35－19　中華台北

〈5・6位決定戦〉
フランス　27－22　ブルガリア

〈3・4位決定戦〉
ルーマニア　42－19　スロバキア

〈決勝戦〉
ロシア　33－22　ポーランド

個人の得点一覧

	ポーランド	タイペイ	ルーマニア	ハンガリー	ブルガリア	ルーマニア	計
1 遠藤 ひろみ(東女体)	−	−	−	−	−	−	0
12 庵下 雪絵(筑波大)	−	−	−	−	−	−	0
2 杉原 奈々(オムロン)	1	6	1	1	3	1	13
3 梶田 華恵(東女体)	4	3	7	5	7	11	37
4 阿部 真澄美(筑波大)	1	1	−	4	3	7	16
5 琴野 由子(武庫女大)	2	2	−	−	2	−	6
6 池原 みゆき(大体大)	5	1	1	2	1	−	10
7 辻 賀奈子(大体大)	5	9	3	6	2	2	27
8 裕 美樹(大体大)	1	3	4	2	3	1	14
9 小島 淳子(東女大)	−	−	2	−	−	1	3
10 山口 美穂(東女大)	1	3	3	7	3	3	20
11 日下部 美智(筑波大)	−	3	1	1	−	−	5
13 早川 まさみ(筑波大)	−	1	2	−	1	−	4
14 田口 順子(日体大)	−	−	−	−	−	1	1
15 西田 由美子(大教大)	−	−	−	−	−	−	0
17 岡野 早苗(筑波大)	−	−	−	−	−	−	0
	20	32	24	28	25	27	156

全日本学生チームロシア遠征報告

世界学生選手権大会目指して

団長　福地賢介

　世界選手権・オリンピックの上位常連で、前回（トルコ）の世界学生選手権の優勝国であるロシア（ソ連時代含む）へかねてより強化のための遠征が出来ればと思っていた時、ロシア外務省勤務の知人のプローホロフ氏が在日ロシア大使館に赴任して来たので、強化のためにロシアへ遠征したいが如何に費用負担少なく出来るか相談したところ、航空会社はアエロフロートを利用し、宿舎は大学の寮を利用してはと助言されると共に、ロシア国営アエロフロート航空、ロシア大学スポーツユニオンへ協力の便宜を図ってくれ、運賃割引協力やロシア大学スポーツユニオンの協力でモスクワ州立技術大学の学生寮ゲストハウスが準備され、斯界で初めてのロシアへの強化中心の遠征が実現した。

　8月26日9時15分・アエロフロート航空SU578便にて成田を出発、同日14時15分（時差5時間・所要時間10時間）にモスクワ・シレメチエヴォ空港到着ロシア大学スポーツユニオンのユーリー氏の出迎えを得て、10日間の遠征が始まった。

　モスクワ州立技術大学学生寮を基点にし5試合（内1試合は20分ゲーム）を行い9月3日18時40分SU571便にてシレメチエヴォ空港を出発、4日9時30分成田に無事帰国した。

　今回の遠征は、本年12月26日から平成9年1月6日まで、ハンガリーにて開催される第14回世界男子選手権大会参加の全日本学生選抜チームの最終選考も兼ね、対外人の高さ、パワー、特にサイドシューターへの馴れ、団体生活の適応性を見極める事でもあった。

　海外遠征初経験者が7名いる事もあり、実際に対戦してみて、高さ、パワー、相変わらずのサイドシューターの巧みさ、その他充分肌で感じ取ってくれたと思っていた。

　当初の予定と現地到着後の若干の相違、国民性なのか時間等へのルーズさ、また、クレムリンから地下鉄で2駅しか離れていない処なのに、蚊の発生があり蚊取線香が届くまで選手が蚊に悩まされた事、また、練習用体育館にゴールポストがなく難儀をした事等諸々の経験をしたが、初期の目的は充分に果たしたと思う。

　この遠征で協会関係者や大学スポーツの関係者と話す機会があったが、共にソ連からロシアになって各スポーツ団体への補助金減額でロシアスポーツ界が今一つ勢いを欠く事と言っていた。また、ロシアスポーツ界におけるハンドボールの位置付けの問いには、アイスホッケー・バスケットボール・サッカー・バレーボール・その他に次いで8番目にランクされており、決してメジャーではない事、その他多々聞かれた。

　個人的には、ソ連時代に訪れた時のモスクワと比較して、今回は、冬と夏の違いはあるが、町行く人の服装もかなりカラフルになっており、わが国同様のファッションであったり、街全体がすごく明るくなったと言う印象を強く感じた。また、反面、テレビ報道のインフレが年金生活者を大きく圧迫している事も実際に聞かされた。物価的には日本の5分の1から4分の1と言う処である。インフレ懸念でドルへの依存が強く、外国人の支払にドルを求める場面が多くあった。日本の円は余り関心を持たれなかった事を感じた。

　大使館の知人よりモスクワの治安が著しく悪いため、夜間の外出などは充分に注意するようにと言われていたが、幸いにも、今回はそのような場面に遭遇することなく帰国出来た。

　取り急ぎのような報告であるが、最後に今回の遠征で特にお世話になった、アエロフロート航空、伊藤忠商事株式会社モスクワ支社、その他の方々に紙面をお借り致しお礼を申し上げたい。

CPの個人記録

名前	大学名	対クンツユボ	対マイン	対クンツユボJr	対クンツユボ	合計
池辺	大体大	1/1	2/4	0/0	1/1	4/6
森山	日体大	2/6	3/5(内7mT1)	3/3	3/6	11/20
荒尾	日体大	2/5(内7mT1)	5/8(内7mT2)	5/5(内7mT1)	4/12(内7mT2)	16/30
工藤	筑波大	2/2	1/1	3/5	2/6	8/14
羽賀	中京大	1/1	0/0	0/1	0/0	1/2
斉藤	中京大	1/1	1/7	1/3(内7mT1)	0/0	3/11
荒木	大体大	2/6(内7mT1)	2/3	4/6(内7mT2)	6/7	14/22
清水	大体大	1/2	0/1	1/2	0/1	2/6
田中慎	福岡大	0/1	1/4	4/6	3/7	8/18
中川	中央大	0/3	−	−	−	0/3
岩本	国士舘	0/0	3/3	0/0	0/0	3/3
田中将	日体大	3/7	1/5	3/4	−	7/16
片岡	函館大	1/3	0/1	5/5	0/0	6/9
田場	日体大	9/13	5/10(内7mT1)	4/6	4/11	22/40
谷	国士舘	0/1	0/2	3/3	0/0	3/6
攻撃回数		67回	73回	60回	65回	GK元村(中央大)
アベレージ	平均シュート数＝55.1本		1試合平均得点＝27.0点		1試合平均攻撃回数＝66.3回	GK安藤(中部大)
	平均シュート率＝0.524%		1試合平均失点＝29.3点		1試合平均ミス発生＝14.8回	GK濱口(大体大)

全日本学生チームロシア遠征報告

試合結果

★8月28日

日本学生25（11−17／14−13）30クンツユボ

*ロシア2部リーグ2位（世界学生候補選手所属チームで一部学生）

今回の遠征メンバーで海外初遠征と言う選手が7名いたために、対外人への不馴れが危惧されたが、スタートから、高さとパワーに戸惑い連取されて6点差をつけられ、前半20分を経過してからそれに馴れ、後半は追いかける展開となったが、結局は、追い込めず敗退した。

★8月30日

日本学生24（14−16／10−18）34マイン

*ロシア2部リーグ4位

ロシアの世界学生候補選手所属チームで学生中心に編成されていた。前半は何とか対等に戦ったが、後半は、相手のデイフェンスシフトを変えて来た事に対応できず、攻撃が散発的になった事と、1対1での接触プレーで、身体を預けられたプレーに対応出来ず、後半は力負けして大差がついた。

★9月1日

日本学生36（19−6／17−13）19クンツユボジュニア

クンツユボのジュニアチームで高さはあったが、スピード・テクニック（サイドプレーヤーは除く）に今一つで滑り出しから順調に加点した。しかし、後半、体力的な面も影響されてか、メンタルな面でも持続性に欠け、イージーミスが目立ち、追い上げられた。

★9月2日

日本学生23（12−15／11−19）34クンツユボ

1戦目とは逆に、ロシアのプレーに馴れたのか、前半は対等な展開に近かったが、後半は、ポストを封じられたり、相手サイドプレーヤーのシュートを防御出来なかった事や、スタミナ的な問題もあり、相手デイフェンスのマーク・プレッシャーがきつかったとは言え、イージーなミスが出た事や、シュートの単発さなどもあって点差を広げられ敗れた。

日本学生 8−13 クンツユボB
（20分1本試合）

第1試合で出場しなかったKYH／EBOのスタメンを除いた選手Bチームの混成チームであったが、この試合で見るかぎりでは、控えの選手との技量は大差なく、20分のゲームであったが、先手先手を取られて、敗れた。

海外レフェリーデビューについて



仲田　稔

今年3月30日から4月5日まで韓国ソウルにおいて国際審判員の試験が行われました。海外での試験ということでプレッシャーを感じながらもハードなメニューをこなし、なんとか合格することができました。その後帰国してすぐに熊本でのジャパンカップ、6月に広島での広島国際と、合格して間がないのに数々の国際試合を経験させていただき大変感謝しております。

そして今回の世界ジュニア選手権アジア予選が私達にとって初の海外派遣ということで、選手時代には何度か海外遠征をさせていただいたことがありますが、審判員として海外に行けるとあって期待と不安でアラブ首長国連邦に17日間行ってまいりました。

今大会の審判団については、ヨーロッパからのゲストレフェリー（クロアチア）を含め10ケ国10ペアで構成され、我々は早くも大会2日目に第1回の順番が指名され、イラン対カタール戦を担当することができ、とりあえずひと安心といったところでした。全日程24試合を10ペアで割り当て、地元アラブの関係した6試合すべてを地元の都合によりクロアチアのペアが担当し、その他は平等に2試合づつの担当となりました。全試合を毎日テレビで中継しており、地元アラブの試合になると会場も満員になり、観客の興奮状態も日本では考えられないものでした。

また、大会の運営においては、プログラムなどは準備されておらず、日程や組み合せさえも知らされず、配布物はいっさいありませんでした。今日のゲームは誰が担当するのかも発表されず、ミーティングについても連絡がない時もしばしばで、こちらから確認して、はじめて知ったこともありました。中東で行われる大会は、うわさには聞いていましたが、日本で開かれる几帳面さとの違いを痛切に感じた大会でした。

今回このような経験をさせていただきました協会の皆様には大変感謝しております。国際審判員として、今後の国内の活動においてもより一層の努力と勉強が必要であると大きな責任を感じております。我々がここまで来るにあたって、今まで御指導してくださいました先輩方や全国の審判仲間の皆様のおかげと感謝の気持ちで一杯です。まだまだこれから先も努力を重ね、諸先輩方に追いつき追い越したいと思っておりますので、どこかの会場でお会いした際には、遠慮なく御指導、御助言をくださいますようお願い致します。

植村　彰

最初に遅くなりましたが、今年3月31日から4月4日までの5日間、韓国ソウル市で行われました第1回東アジアコンチネンタル・レフェリーコースに参加させて頂き、無事に合格できました事を報告させて頂きます。日本協会をはじめ関係者各位の御指導のお陰と感謝しております。本当にありがとうございました。

さて、今回8月21日から9月1日まで中東アラブ首長国連邦ドバイ市で第5回アジア男子ジュニア選手権にコンチネンタルレフェリーとして初めて参加させて頂きました。8月18日に日本を経ちドバイへ向かいました。「アラブは暑さの厳しい国」と心の準備はしていたものの、いざ現地に着くと予想をはるかに上回る気温の高さ（日中の平均気温45℃）と湿度（100）には、身体の方もなかなか適応できませんでした。しかし、よい体験ができました。

この大会の参加国は、日本、韓国、中国、イラン、クウェート、カタール、サウジアラビア、バーレーン、オマーン、アラブ首長国連邦の10ケ国でした。試合は、チームを3つのグループABCに分け、予選リーグを、続いて順位決定戦という形ですすめられました。レフェリーは、参加国帯同ということでしたが、中国が都合により不参加となり、かわってクロアチアから来た、アトランタオリンピックでも笛を吹き、熊本のジャパンカップにも招かれたヴジノヴィッチとムラディニッチがゲストレフェリーとして顔を見せていました。

私たちが、初の海外国際大会で担当した対戦カードは、カタール対イラン戦、中国対イラン戦の2試合でした。出来具合は、自分で言うのも何ですがなかなか良かった様に思います。「今まで自分達が実践してきたレフェリングをするしかない。また、それ以上の事は出来ない。」という気持ちでコートの中に立ちました。適度な緊張感が逆に快感に思う様になっていた事には自分自身も驚きでした。とくに、カタール対イラン戦では、罰則についても段階的にうまく運用出来、選手もうまく反応してくれたと思います。前、後半何事もなく無事終了し、オフィシャル席に戻った所へ両チームの監督、選手までが握手を求めてきた事には感動いたしました。初の海外国際試合も満足できる内容で終わる事が出来ました。これからも国際審判員として活動していく中で数多くの修羅場をくぐらなければ一人前にはなれないと思います。今後もひとつひとつの大会を糧にレフェリーとして成長していきたいと思います。これからも御指導のほど、お願いいたします。

列島縦断

県協会の現状と課題

滋賀県協会理事長
秋永昭治



滋賀県協会の現状は、国体の本戦出場が今年で7年連続して果たせていません。このことから推測されるように長い低迷の時期が続いています。

現在、県内のチーム数は、小学生0、中学生男子11、女子5、高校生男子14、女子11です。大学生男子3、女子2、一般男子4、女子1と合計で男子32チーム、女子19チームです。これらのチーム以外に高校のOBやOGが中心になって活動しているチームが少々あります。

中学や高校では以前は存在していたチームが、指導者の転勤等で消滅してしまうケースが見られるのが残念でなりません。これらは、県内の指導者不足や普及の遅れが原因となっています。

第36回びわこ国体が彦根市で開催されたのは、今から15年前になりました。当時は高校のチームを中心に活発な活動が組織的に展開されていました。県内のトップチームだけでなく、全体的に底上げされたチームが多くあり、切瑳琢磨の状況にありました。当然、国体後もその状況は当分続きました。競技力だけでなく運営面や審判員の資質向上のためにも多くの努力が払われ、総合的な力量がありました。

当時の中心的役割を果たされた先輩の多くは、今はハンドボール界を去られています。反面、国体を契機に何名かの選手が滋賀県に来ました。残念ながら指導者として嘱望されながら滋賀を去った人もいます。国体後も選手、指導者として現在も努力している人もいます。しかしここ近年の選手強化、競技力の状況を考えてみると、現在の協会そのものが、有機的、総合的に機能せず、力を出せていないようです。

8月の下旬に久しく開かれていなかった理事会を行いました。中心議題は97年の「全国小学生大会」の滋賀県開催でした。当初、この開催要請を受けた段階で「小学生チームもないのにできない」とか「多くの大会が集中する時期に役員や補助員が足りない」などの否定的な意見が多くでていました。しかし、色々な面から、この大会開催について討議していく中で、県協会の抱えている課題が明らかになってきました。底辺の拡大です。この課題を克服しないで、長期の安定した競技力のアップは望めません。せめて「高校のチーム数以上の中学校にハンドボールのクラブを」「幾つかの小学生のチームづくりを」が必要です。そのためには、指導者の育成が必要です。

将来的には、サッカーや野球のように、多くのスポーツ少年団的活動の小学生チームを多くつくることです。この課題は、滋賀県だけでなく全国的なものです。今年の全小は20府県の参加でした。小学生にハンドボールを普及するためには、マスメディアにいかにハンドを載せていくかが必要条件です。他の競技がそうであったように。

先日の新聞記事に興味あるものがありました。Jリーグ、名古屋グランパスの監督で英のアーセナルに移籍したヘンゲル氏の言です。約2年間見た日本のサッカーについてのものです。（ヘンゲル氏は、世界で15人しかいない国際サッカー連盟のテクニカルディレクターの一人）見出しは「7～12歳から応用力会得を」でした。このことは、サッカーだけでなく、他の球技も当然当てはまります。彼は日本サッカーの課題を「協会が金をかけ、ユースコーチを育成することだ。そして、サッカーの教育システムを変えること。7～12歳はゲーム中に体の向きや位置を会得するのに重要な時期だ。学校で習った選手がプロに来るのは隔たりがある」さらに「日本の教育は分析的で『この状況ではこれ』と凝り固まるから、全てのプレーはゴルフのようだ。…小倉もフリーならストイコビッチだ。でもサッカーは常に敵がいる。その時使うことをあらかじめ決めるのではなく、応用力が必要だ。それをつくるのが7～12歳の時期なのだ。」でした。

彼の言葉は、今の日本スポーツ界全体に多くの示唆を与えたと思われる。日常のクラブ等の指導にも、この指摘を生かす必要がある。子ども達がのびのびとしたプレーを発揮してこそ将来の技術向上がある。自ら考え、実証する中で、興味も増すことだろうし。

4月に理事長に就任して半年が経ちました、山積みされた課題解決に微力ながら努力していく気持ちです。

最後になりましたが、来年、本県で開催予定の全国小学生大会に多くのチームが参加されますことを期待しています。

指導者の条件

指導者は情熱を持ち、努力と研究心を持って指導に当たれ

元明星高校監督　高橋　英次



昭和36年4月、母校明星高校の監督を大房昌實先生（順天堂大学ハンドボール部創始者）よりバトンタッチしたが、この年はバスケットボール部とハンドボール部の両方を担当するよう学校より命ぜられスタートした。バスケットボール部は幸いにもインターハイ初出場がきまり、監督としてハンドボール部より先に貴重な経験をすることができた。

翌、昭和37年4月よりハンドボール部のみの監督となった。ハンドボール部も1年でも早くインターハイ出場を実現するべく、毎日の練習に励んだ。結果は東京都3位であったが、関東大会にも3位に入賞することができた。また、新人戦ではインターハイで準優勝している神代高校（佐野和夫監督）に決勝戦で勝つことができ、先が見えて来た。

昭和38年度は、日本のハンドボール界にとって一大転換期を迎えた。それは、11人制から7人制ハンドボールへと国内の大会はすべて変わった事である。幸いにも明星は部員数が少ないということと、自分自身は早くから7人制ハンドボールの経験があり、慣れていたことでした。お陰様でインターハイ予選に勝つことができ、監督として初出場がきまった。この時はさすがに嬉しかった。

監督になって3年目、インターハイの初出場がきまり、関東大会に優勝することができ、朝日新聞の予想には優勝候補にあげられており、第1シードにもなっているので意気揚々として出掛けたまでは良かったが、大会参加中一番の大型チームであった京都の伏見工高（門前和監督）に前半10対5とリードしていながら、延長戦にて敗れ、初戦敗退という大変なショックを受けてしまった。

9月、国体関東予選に勝つことができ、山口国体の出場がきまった。こんどこそは上位入賞するだろうと思い、会場の徳山市へ向った。1回戦は勝つことができたが、準々決勝にて愛知県代表の宇津野年一監督率いる、平均身長165cmぐらいしかない小型チームの中京商業高校に、手も足も出ないほどの完敗を喫してしまい、これほどベンチにてみじめでつらい思いをしたことがなかった。

その晩は、全員でミーティングをし、試合の反省、今後の練習のことなどを話し合った。次の日は取りあえず、3年生は観光にやり、1・2年生と自分は中京商業高校や勝ち残っているチームの試合見学をした。その見学にはメモ用紙を持たせ、ボディーコントロール（フットワーク・フェイント）、ボールコントロール、目の使い方等の課題をあたえた。

インターハイの逆転負け、国体での大敗、この2つの大きなショックは、指導者として大いに反省させられ、学ぶ事が多くあり、何にも増して非常に大きな財産となった。

そこで、大きな今後の指導目標、課題として考えたことは、次の3点であった。

◎スピードの養成
◎ディフェンスの強化
◎速攻（3段階の使い分け）とセットオフェンスの完成

なかでも、ディフェンスの強化をいかにするかということが第1の目標であった。それは、ディフェンスが弱ければ絶対に速攻ができないということと、速攻ができなければ得点がとりにくいという事である。また、ディフェンスが強ければ相手に得点を取られることも少なくてすむので、たとえリードされても大きなダメージを受けないので、逆転の可能性も多く残るという考えからでした。

国体以後、3つの課題を頭に置き、11月29日に予定されている、初の国際試合である韓国選抜チームとの試合にそなえた。

全国6試合予定されている中で、単独チームでの対戦は明星だけで

あり、第1戦目ということで絶対に負けられないと思い、非常に緊張した。試合は前半6対4と接戦であったが、後半は韓国チームが無理と思われるロングシュートをどんどん打ち、ラフになったので明星の速攻が出やすくなり、19対11で勝利を収めることができ、ほっとした。

以後、韓国チームは予想に反し、当時全国トップレベルにあった愛知県選抜や大阪選抜チーム等すべてに勝ってしまい、日本ハンドボール界を「アッ」と驚かせてしまった。

自分にとって、当時は雲の上の存在であった愛知県選抜や大阪選抜チームが韓国チームに敗れたことは非常に驚きであった。反面、その韓国チームに勝てたのは明星だけであり、このことは、今後のために、大きな自信につながった。

昭和39年、心機一転インターハイ優勝を目指し、明星ハンドボール部創設以来初の元日からの練習を開始した。体力養成を主眼に個人技術のレベルアップをはかり、春の合宿、練習試合と順調にチームが仕上がって来た。この年は、東京オリンピックの開催された年であり、秋の国体が春に行われた変則な年であった。国体東京都予選では準決勝、決勝とも失点2というディフェンス力がついてきた。関東地区予選にも2年連続で勝ち、新潟国体に参加することができた。

昨年同様1回戦には勝てたが、またしても準々決勝で名門中の名門である愛知県代表の桜台高校に5点差で敗れてしまった。

7月11日、期末試験も終り、インターハイにそなえ、これまた明星始まって以来の猛練習を開始した。炎天下の中、午後1時半より7時頃まで、途中30分の休憩をとり、1−2−3ディフェンス（明星ではピラミッドディフェンスといった）と3段階速攻及びフォーメーションの完成を目指した。

7月22日から3日間、関東大会が群馬県桐生市にて開催された。この大会はインターハイにそなえ合宿のつもりでやれということで、大会期間中も相当練習を行った。試合中に足のケイレンを起こす者もいたが、優勝することができた。15名の部員が1人の欠席者もなくインターハイまで練習することができ、自分の描いていたディフェンスや速攻、それにフォーメーションが流れるように展開できるようになってきた。

8月2日、いよいよ第15回インターハイが長野県上田市において開始された。この年から明星高校の児玉九十校長が、徳永陸繁先生等の推薦により全国高等学校ハンドボール部長になり、開会宣言を行った。また、15周年を記念し、10回以上の出場校の表彰も行われた。

試合の結果は、どの試合も立ち上がりが悪かったが、前半中頃より段々調子が出始め、後半は圧倒的なディフェンス力が発揮された。特に、準決勝では7mスローの1点に、決勝ではフリースローからの1点という最少失点におさえることができた。

夢の夢であったインターハイ初優勝は、この年から行われた新たなる元日からの練習、夏の炎天下のもとでの6時間あまりの練習によく耐え、ついて来た部員の頑張りがもたらしたものであった。

以上、初優勝までの経過を述べてきましたが、その間に受けた諸先輩からのアドバイスや自分が実行してきた選手育成の考え方、指導者の条件等以下にまとめてみました。

1、ハンドボール競技の特性を学び、合理的実戦的練習法を研究する。
2、誠意と情熱を持ち、勝ちたいという強い願望と信念をもち指導する。
3、いかにしたら選手に練習意欲を持たすことができるか、常に指導方法等工夫する。
4、ハンドボールはチームワークが重要な要素を持っているので、監督、コーチ、選手、その他チーム関係者とのコミュニケーションに気を配る。
5、公務等忙がしいと思うが、練習現場にいかに多く顔を出せるかが、勝敗に大きく影響する。
6、能力の差は小さいが、努力の差は非常に大きいので、毎日の練習を大切に行う。
7、試合の責任はすべて指導者にある。負けたときに選手を叱責するだけでは進歩しない。
8、負けたときこそ得るものが多いはずである。自らが大いに反省し、次の試合に向けて研究、努力することが大切である。
9、試合は相手があって出来るものである。どんな相手に対しても敬虔な気持ちを忘れないこと。
10、選手は学業や進路の問題、家庭や経済の問題、技術や人間関係等悩みや迷いが多いものです。これらの諸問題について親身に接し、指導助言に気をくばること。

その他、多々あると思いますが、要は指導者は情熱を持ち、1日1日の練習にベストをつくし、徹底した努力と研究心をもって指導することが大切だと思います。

【戦績】（明星高校）
インターハイ優勝3回。
国体優勝2回。

'97男子世界選手権大会・熊本だより

★1997年男子世界選手権大会アジア代表決定

東アジア代表に中華人民共和国！

[決勝]

中　国29―27韓　国

西アジア代表にサウジアラビア

[決勝]

サウジアラビア20―22カタール

※両チーム2勝1敗となったが、得失点差でサウジアラビアが1位となった。

東西アジアの2位同士（韓国、カタール）でアジア第3代表決定戦が行われる。

★世界選手権大会第2号ポスター完成

男子世界選手権大会・熊本をPRする第2号ポスターが発表された。製作者は東京でデザイン事務所を開設している熊本県出身の西本和代さん。シュートシーンを中央タイトルの上に配置してハンドボールのイメージを具体化したという。

★入場券、大会記念グッズ発売中

別表のように入場券と、大会記念グッズが発売中です。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

[問い合わせ・申し込み先]

熊本県熊本市平取本町8―3
97男子世界ハンドボール選手権大会
組織委員会事務局
TEL096-352-1997
FAX096-352-1911



第2号ポスター

商品の種類	単　価
記念入場券(通し券)	10,000円
開会式入場券	3,000円
飛勇太人形	3,000円
テレホンカード(1)	1,000円
テレホンカード(2)	1,000円
飛勇太バッジ	300円
飛勇太鉛筆	50円

「金の卵を掘り起こそう」

企画・広報委員　**早川　文司**

かつての沸騰ぶりはどこえやら、ラグビー人気は下降気味。そこで日本の顔・平尾（神戸製鋼）が人気ばん回に乗り出しているのはご存じの通り。将来日本を背負って立つラガーメンを広い視野から掘り起こしていこうという「平尾プロシェクト」で、一般公募の結果、80人を越える応募があったという。

ラグビー経験の有無にかかわらず、キック力、ジャンプ力などの特技の持ち主なら「どなたでもどうぞ」という門戸を広く解放したユニークな取り組みである。こうした試みは当然、人気ばん回にもつながるし、あっという金の卵が出現するかもしれない。

「どうしたら人気が出るか」が長年の課題であるハンドボール界して、こうした画期的なアクションが起こせないものだろうか。いや、起こすべきだろうと思う。

競技経験は問わず「あなたも日の丸をつけてませんか！」といったキャッチフレーズで日本リーグ、国体、全日本選手権などあらゆる機会をとらえ、広く呼びかけてみてはどうだろう。

それも10年後、20年後を見据えた長期計画をもってジュニア、ユースクラスを標的にして毎年続けることが肝心である。意外と素晴らしい素材に出会えるかもしれない。

また、ハンドボールをしたくても、学校でクラブがなく、やむを得ず他のクラブで我慢をしている者だっているだろう、そうした彼らに〝登竜門〟としてのチャンスは、いくら与えても、与えすぎるということはない。

こうした企画＝アクションが成功するか、成功しないのかの一つの大きなポイントとして全日本の活躍があることは言うまでもない。

激しく、スピーディで、スリリングに富んだ戦いを疲労することによって、ハンドボールという競技に目を覚まし、興味を示す人を発掘することにも結びつく。

全日本と協会の連携プレーによって、隠れた人材発掘のプログラムを組むことは可能だと信じる。案外、世界に通じる大型の金の卵が出現するかも入れない「即実行」の検討をお願いしたい。

フリースロー
Free Throw

平成8年度 審判員登録報告

審判委員会

はじめに

審判員の登録は2年に一度偶数年に実施されているが、審判委員会としては今まで報告する機会がなかった。そこで、今回、登録の現状を公表することにした。

本報告では各都道府県ごとのA・B・C級レフェリー数、ブロック・年齢・職業別分布、女性レフェリー数などについて集計を行なった。これらにより、現在の日本のハンドボール界のレフェリー数の実態を把握し、問題点と、今後のレフェリー養成の課題について指摘してみたい。

①登録数

各県、ブロックごとの国際、A級・B級・C級の登録数を示したものが表1・表2である。全体で1693名のレフェリーの登録がなされていることがわかる。

現在の登録番号が12000番台であることと併せて考えてみると、定年のレフェリーをのぞいても、10000人近いD級レフェリーがいることになる。そしてそのほとんどの有資格者が上級申請をしていないものと思われ、今後有資格者の上級養成の方法についても考えていく必要があるであろう。

②級別分布状況

表1で見る限り、国際10名、A級271名、B級526名、C級886名となっている。

上級レフェリーになるに従い、登録数が減少しており、全体としてピラミッド構造を示していることがわかる。また、その構成もC級の約半分がB級、B級の半分がA級というように、比較的、妥当な構成となっていると思われる。

全国大会を審判する有資格者はA・B級であり、A・B級が約800名存在することから考えると、機械的に見れば全国大会は約400ペアで運営されていることとな

表1 平成8年度 審判登録数

	ブロック	都道府県	国際	A級	B級	C級	合計
1	北海道	北海道	0	9	21	55	85
2	東北	青森	0	6	8	12	26
3		岩手	0	12	14	21	47
4		宮城	0	5	6	15	26
5		秋田	0	6	5	6	17
6		山形	0	4	8	15	27
7		福島	0	9	9	8	26
8	関東	茨城	1	4	21	14	40
9		栃木	0	2	6	10	18
10		群馬	0	2	6	15	23
11		埼玉	0	12	21	22	55
12		千葉	3	2	9	28	42
13		東京	3	16	23	38	80
14		神奈川	0	19	26	52	97
15		山梨	0	4	15	10	29
16	北信越	新潟	0	0	2	6	8
17		長野	0	1	13	18	32
18		富山	0	17	10	21	48
19		石川	0	9	9	14	32
20		福井	0	7	5	20	32
21	東海	静岡	0	3	9	14	26
22		愛知	1	17	36	54	108
23		三重	0	1	16	15	32
24		岐阜	0	2	9	23	34
25	近畿	滋賀	0	2	10	9	21
26		京都	0	9	13	9	31
27		大阪	0	12	10	26	48
28		兵庫	0	3	4	13	20
29		奈良	0	2	9	9	20
30		和歌山	0	2	7	11	20
31	中国	鳥取	0	4	8	11	23
32		島根	0	0	3	15	18
33		岡山	0	9	15	19	43
34		広島	0	9	15	12	36
35		山口	0	7	23	25	55
36	四国	香川	0	4	11	16	31
37		徳島	0	0	4	11	15
38		愛媛	2	4	9	17	32
39		高知	0	4	7	9	20
40	九州	福岡	0	10	16	18	44
41		佐賀	0	1	10	17	28
42		長崎	0	1	6	32	39
43		熊本	0	9	6	8	23
44		大分	0	3	4	5	12
45		宮崎	0	4	12	15	31
46		鹿児島	0	0	3	22	25
47		沖縄	0	3	14	51	68
		合計	10	271	526	886	1693

表2 ブロック別登録数

	国際	A級	B級	C級	合計
北海道	0	9	21	55	85
東北	0	42	50	77	169
関東	7	61	127	189	384
北信越	0	34	39	79	152
東海	1	23	70	106	200
近畿	0	30	53	77	160
中国	0	29	64	82	175
四国	2	12	31	53	98
九州	0	31	71	168	270
合計	10	271	526	886	1693

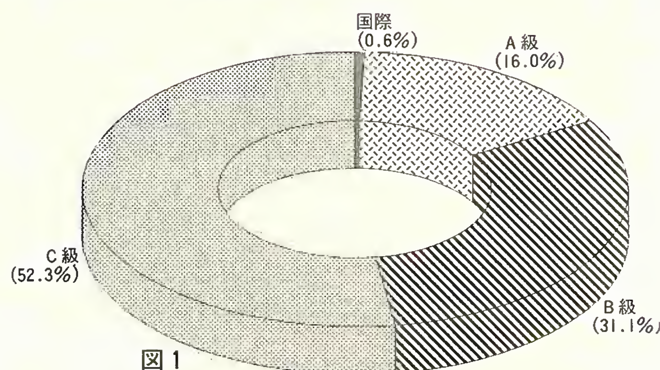


図1

り、量的には不足しているとはいえないであろう。

③ブロック別登録数

ブロック別の登録数を示したものが図2である。登録チーム数や試合数などの違いはあるが、ブロックによってばらつきのあることがわかる。上位から関東22・7%、九州15・9%東海11・8%となっている。しかしながら、図3に示すように、各ブロックの中における級別分布は様々である。

全国大会の審判ができるA級に限定してみると上位から関東・東北・北信越の順となり必ずしも登録数との相関があるとは言えない。

現状では全国大会のレフェリーは大会開催ブロックを中心に派遣されるシステムなので、大会運営可能なレフェリーの養成という視点が大切になるであろう。

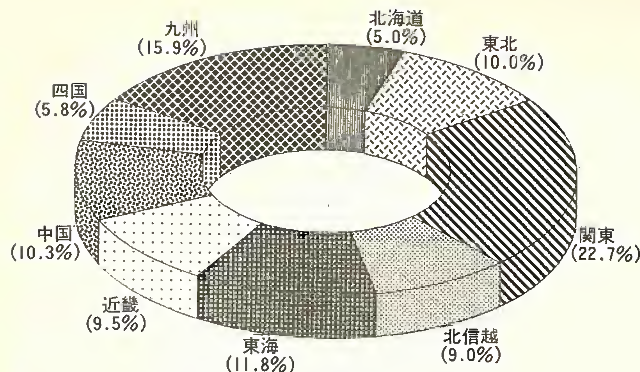


図2　ブロック別登録分布

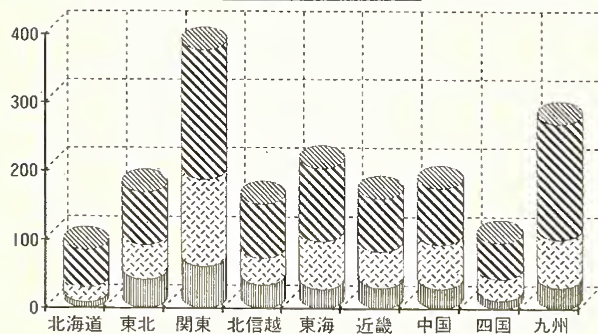


図3　級別ブロック登録数

④年齢別分布

図4は年齢分布を示したものである。これにより、最も活動可能な30代のレフェリーが多く登録していることがわかる。また、ハンドボールにおけるレフェリーは経験を必要とするため40代にA・B級が多く登録していることも理解できる。

しかしながら、20代後半のA・B級レフェリーが少ないことが不安を残す。ハンドボール競技が、今後益々スピード化されてくることを考えるとき、この年代の養成は急務と言えよう。

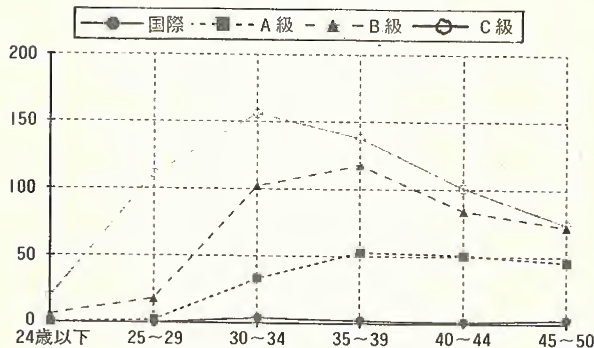


図4　年齢別登録数

⑤職業分布

職業分布は、図5に示すように教員（大学、高校、中学、小学、特殊学級等）が、約72%を越え、圧倒的な教員主導であることがわかる。なかでも高校教員は全体の45%を占めている。

一方、民間・自営者の割合も16・8%と見逃すことができない。今後の社会体育の育成と普及を考えるとき、民間・自営者レフェリーを育成し、活躍の場を作ることも課題になるであろう。

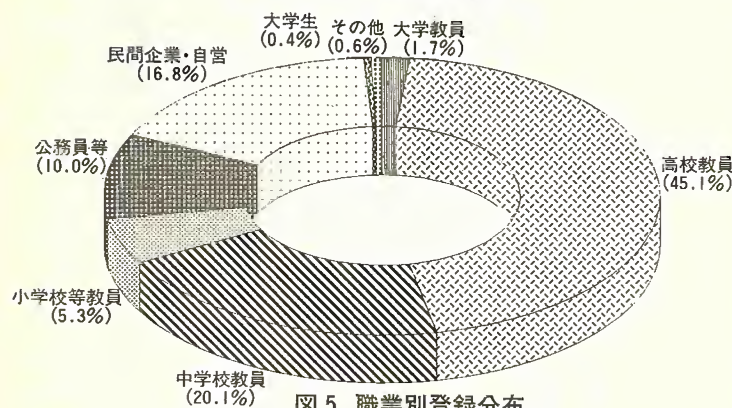


図5　職業別登録分布

⑥女性登録数

サッカーやホッケーなど、女性レフェリーの活躍はアトランタオリンピックを見ても明らかである。今後、女性が審判するという傾向は強くなるであろう。IHFでも日本協会審判委員会としても女性レフェリーの育成を課題としているが、その実態は思わしくない。

今年度の登録でも、A級3名、B級8名、C級33名、合計44名は極めて少ないのではないだろうか。

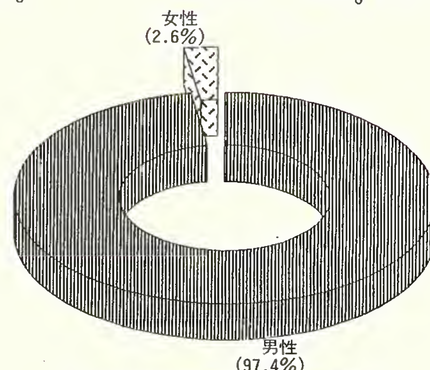


図6　女性レフェリーの場合

おわりに

今回は、各都道府県提出の名簿を基に集計をおこなった。その結果、全体のレフェリー数、各級別分布、年齢構成や職業分布、女性レフェリー数を把握することができた。

レフェリー数については、全国大会や、各県レベルでの試合数の関係上、多いのか、少ないのかについては議論となるところである。また、単に量的な面からだけでなく、レフェリーの質（技術）の面からも様々な意見が出てくるであろう。しかし、いずれにせよ、まず実態を把握することが先決といえる。

今後、審判委員会としても今回の分析を基にレフェリー養成の実をあげていく所存である。

最後に指摘しておきたい事実がある。それは、A・B級の受験者数そのものが近年、減少していることである。もし、それが、レフェリーをする意欲自体の衰退とみるならば、ことは重大である。

レフェリー養成への各層のバックアップを期するところである。

平成7年度コーチ・レフェリーシンポジュームより ～指導委員会

子供から大人までの一貫教育について

IHF CCM アラン・ルンド

まずはじめに「WORLD HANDBALL 1995」の出版に対して、このような形で短期間で訳された文章として読むことができる大変重要なことである。大西委員長はじめスタッフに対して慰労の言葉があった。

ルンド氏もＣＣＭに所属して10年間ハンドボールに関する専門の本を出版し続けてきた。しかし、多くの場合それはドイツ語としての出版であり、できてもフランス語での出版に終わり、その他（たとえば英語などで）訳されたものは一つもない。

そこで、近年の新しい発展、とくにアジアに見られる新しい発展などの情報を取り込み新しいシステマチックな本を作ることを目指し計画し作成におよんだ。それをこの度日本語として訳したものが、この本の１０８Ｐから以降のものである。

この中で、おわかりの通り技術面・戦術面と分けてシステマチックに分類してあります。技術に関する分類は比較的楽でありましたが、戦術に関する分類は非常に難しかった。また、技術の分類においても新しい技術、たとえば利き腕を大きく回旋して相手を抜いていくフェイントについては、その技術を最初に行ったのがユーゴのラデノビッチであったために「ラデノビッチ」と呼んでいたが、その説明を記述することは大変難しいことであった。ここに書かれてあるものは1年半前に完成したものであるために、それ以降の新しい技術（たとえば韓国の新しいフェイント）等に関しては当然網羅されていない。

では、このようなシステマチックな用語の分類したものを形にすることは、日本ハンドボール協会にとってどのような意図があるのでしょうか？

それは、ここにいらっしゃるそれぞれのレベル（クラブ、高校、大学、実業団等）のチームの計画やトレーニングの基礎となるからである。

１１８Ｐのシュート技術の分類を見てください。ここにはすべてのいろいろなシュート技術が書かれてあります。ハンドボールをコーチする上では、指導者はすべてのシュートを教える必要があります。ナショナルチームの選手を見てすべての選手がすべてのシュートを身につけていなければならない。

１１９Ｐの中段の特別なシュート技術を見てください。バックシュート、回転シュート等このようなシュートも含めすべてのシュートを教えなければならないのです。

１２９Ｐ中段のフィールドプレーヤーの個人戦術の意図では、前回オリンピックソリダリティーで来日した際に、講義した Being playable（プレイできる状態になること）Makingteammateplayable（プレイできる状態にさせること）について書いてある。

ここで書かれていることはプレイヤーが常に意図していなければならないことであり、次はそれを実行するための手段が必要になる。これに関しては１３０Ｐの中段の「個人戦術の手段」のところで分類してある。

同様に、１３６Ｐではグループ戦術（共同で作り上げる戦術）とその実施の手段について書かれてある。これらすべてをここで一つ一つ説明していくことはとても困難なことである。個々の指導者がこれらについてよく勉強し、自分の計画やトレーニングに取り入れていく事が大切である。それぞれの年齢において必要なものを取り込み作り上げていくことが大切である。

ハンドボールテクニック　銅メダル

パス

NO	種　　目	内　　容	備　　考
1	両手パス	両手で壁にボールを投げる。ボールのキャッチは両手で行う。	
2	ショルダーパス	片手で壁にボールを投げる（10回）３歩使って行う。最後まで止まったままで行う。リバウンドは必ず両手で取ること。	体と腕の角度を90度にする。
3	ランニングパス	壁から2m、お互い2m離してコーンを置く、ボールを壁に投げキャッチする。手の位置を上と下に変えて各々に行う。	
4	トライアングルパス	三角形になって5mの距離をとる。右手と左手で各々10回ずつパスを行う。	肘の角度は90度にする。体は約60度ねじる。
5	トライアングルパス（ジャンプパス）	上記に内容を利き手のみでジャンプパスで行う。	

ディフェンス動作

6	サイドステップ	足をクロスさせずにサイドステップを行う。	
7	トライアングルステップ	足をクロスさせないようにステップしながら三角形を描くように動く。	
8	シュートカット	４回ずつ右手及び左手のスローをカットする。	

フェイント動作

9	ステップシュートフェイント	自分のシュートを行う手の方向へ強く踏み込み、DFを引きつけてから逆へフェイントしシュートする。（ドリブルをつく）	
10	シュートフェイントからポストパス	ちらっとポストを見て、シュート体勢から手首でポストへパスをする。	
11	フェイントから右に抜いてジャンプシュート	両足フェイントぎみに行く。	

シュート動作

12	ステップシュート		
13	ステップサイドシュート	横からシュートする	
14	ジャンプシュート		
15	ランニングシュート		

フォーリング動作

16	腕立てから腕立てスライディング	腕立てから横に転がる。	
17	スネール（カタツムリ）	股下からボールを転がし、後ろに回転してボールを頭上で取る。	
18	トータス（カメ）	腕立て状態からサイドに転がる。	

ハンドリング

19	レッグスルー	歩きながらドリブルをして、股下にボールを通す。	
20	両手を大きく広げて片手パス		
21	手の甲に乗せて20m歩く		

ジャンプ

NO	種　　目	内　　容	備　　考
22	片足ジャンプ４歩	利き手でボールを持ちシュートの状態から４歩ジャンプする。	
23	ステップジャンプ８歩	フリースローぞいに左右1m位飛ぶ。	
24	片足ジャンプ足の引きつけ４歩		

ハンドボールテクニック　銀メダル

パス

NO	種　　　目	内　　　容	備　　　考
1	ワンハンドグリップ	ウイングパスをし他方で片手レシーブする、ボールを反対の手に持ち替えてそこから壁にパス、戻ってレシーブ、両側から5回づつプレーする。	壁から2mの距離に2つのコーンを2m離して立てる。
2	トライアングルで高めのストックパス	3人で5mづつ離れて三角形に立ち行う。左と右回りで10回づつ高めのストップパス。身体の方向転換とパスをリズムカルに行う。片手投げ両手受け。	両腕をしっかり伸ばして体側と腕は90度以上。
3	ホップシュート パスを別々の跳足で	配置は2と同じでホップシュートを左右同じホップで行う。	
4	体側からのパス	2名で2m離れ平行に反対方向に立つ、同方向に3ステップで動きながら高いパス、低いパスを5回、位置を変え左右のパスアームで行う。	

ディフェンス動作

NO	種目	内容	備考
5	ドリブルカット	オフェンスのドリブルを奪いボールを別方向に持っていく。	ボールコントロールをする。
6	ホップシュートのブロック	アウターゴールラインの3か所でホップシュートをブロックする。	
7	シュートカット	オフェンスのシュートアームや身体に4回のストップをかける、左右のシュートアームをカットする。	1回ごとにスターティングポイントに戻る。

フェイント動作

NO	種目	内容	備考
8	振りきりフェイント	ディフェンスの側でシュート。シュートモーション開始ーすぐ中止ードリブルで逃げ反対方向からシュート。	シュートモーションの後ろ腕にしっかり力を込める。
9	ノーボールフェイント	ディフェンスをフットフェイントでひるませて、方向を変えながらボールを受けシュート。	両サイドから行う。
10	タテブロ ロシアンスクリーニング	肩と腰でディフェンスを覆う様に防ぎ、自分は方向を変えボールをレシーブ、シュート。	

シュート動作

NO	種目	内容	備考
11	ワンステップシュート	ワンステップシュートを4回、右手のボールを持ち右足を前に踏み立ち、左足ホップステップ　ステップシュート。	
12	ホップシュートを反対足で	11と同じく構えリズミカルにステップ、反対足シュート。	
13	アンダーハンドシュート	下手シュートを4回、3ステップで、フリースローラインの2か所マイチョイスでパフォーム。	左ー右ー左の順でジャンプ。

フォーリング動作

NO	種目	内容	備考
14	バックローリング	後方回転を左右の肩を使ってパフォーム。	
15	ジャンプ後のスライディングモーション	両手を添えて胸腹部から跳び込みスライディング、直後手を浮かせる。	着地後、頭をバックにそらす。
16	前方ローリング	前方回転を左肩からと右肩から1回づつ立フォーから行う。	あごは胸まで引く、腕と足を見ながら回転。

ハンドリング

NO	種目	内容	備考
17	バックドリブル	ドリブルで20mをゴー＆バックしながら行う。3回目毎ボールをバックから脚下を通して前に出す。反対の手でレシーブドリブルを続け又同様に戻す。	左脚前ー右ー左の時、右後方から左前方にワンドリブル。
18	身体前後でのレシーブ＆スロー	ゆっくり走りながら、前後双方からの自分の頭上をまたぐ、両手パス、両手レシーブ10回。	
19	アンダーハンドスピンシュート	ゴールエリアのアウター側に立つ、ワンバウンドでボールがゴールに入るように、5回投げて4回ゴールインさせる。	ゴールに向かい右側から右手投げ。

NO	種目	内容	備考
20	後ろから股下スピン	ボールが脚間を逆方向に回転。後頭部に両手でボールを持ち足を広げて立つ、ボールをひねり落としワンバウンド、脚下を通し前で両手レシーブ、５回投げ４回ゴールインさせる。	

ジャンプ

21	反対足ジャンプ	シュートフォームで反対足ジャンプする。	右手が右脚と共に躍動する。
22	振りを加えたシュート	プレイエリアを横切る、ディフェンスの外側のシュートジャンプ、上体を振りスキを突いてシュート。	シュートモーションでないように思わせる。
23	両足ジャンプシュート	ボールをパスしてもらい３歩目で両足ジャンプ。	

ハンドボールテクニック　金メダル

パス

1	バックアンドフォース　バックバウンドパス	２名で2mの距離を置き平行に反対方向を向いて立つ、前後に３歩づつ平行移動しながら止まって、後ろから横へワンバウンドパス。左右の位置で10回づつパス。	
2	バックアンドフォース　バックパス	１と同じ配置でバウンドなしのパス。	右手にボール左足前でパス。
3	バックアンドフォース　バックスイングパス	１と同じ位置。	ランニングパス、右手ボール右脚前でパス。
4	バックアンドフォース　バックフックパス	手首だけでパスをする。	

ディフェンス動作

5	後ずさり	ドリブルするアタッカーの前に後ずさりしながら、寄りボールを奪い自らドリブルを続けて逃げる。	ディフェンスは敵のドリブルに手を差し込みボールをコントロール
6	プレッシャー付きサイドステップ	２名のアシスタントが3m離れ平行に立つ、プレイヤーはサイドステップまで左右に寄る度に反対側のアシストがボールを落下、ワンバウンドの後を持ち上げるよう軽くパス、サイドステップで移動10回。	
7	ホップシュートにアタック	ホップシュートの腕と体に４回の防御アタック、左右別のシュートにチャレンジ。	

オフェンス動作

8	ホップシュートの方向換え	ホップシュートジャンプに入って、急にワンドリブルに移り別方向に逃げ、本当のシュート。	シュートジャンプから着地の途中でドリブル。
9	３ステップフェイント	ディフェンス側でボールとレシーブ、ゆっくり左右にその場でステップ、直後急に素早く左右とステップしシュート。	
10	ラデノビッチ	攻撃的なフェイント、ディフェンスの頭上で高くシュートアームを振り、同時に右足をディフェンスの脇に交差するよう出し抜け出る。左足もカバーに使い目くらましする。	

シュート動作

11	半円シュート	ボールを持ち左足を踏み出し、重心をかけてから上体を弓なりにそらし、腕を強く伸展、前後に半円を描くようシュート４回。	ステップシュートの後、右足が左足より前に出る。
12	両足でホップシュート	走り出しパスを受け、１、２で足をそろえて、３で両足をホップシュート。	
13	オーバァーヘッドシュート サイドからスカイプレーシュート	２人組んで走りながらパス、３回目のパスをゴールエリアのセンターでキャッチして、そのままシュート。 ゴールエリアアウターで高いパスをジャンプで受け、頂点からシュート、身体は前方へ肩からはローリング。両ウイングで２回パスフォーム。	２回

フォーリング動作

NO	種　　目	内　　容	備　　考
14	シュート後のスライディング	シュートの後、そのまま前方に飛び込み手を添えて、胸腹部着地、手を浮かせる。	足先を前に向けスタート、膝を曲げてスライディング。
15	シュート後のバックローリング	ランニングしながらパスを受け、ゴールラインウイングでジャンプシュート、80～90のふりで行い、バックローリング。	足先は前方に向けてジャンプ、手を添えて膝を曲げてスライディング。

ハンドリング

NO	種　　目	内　　容	備　　考
16	手の甲　ローリング	グリップをきかせボールが手の甲を転がるように軽く投げる。手首は動かさず再びボールをつかむ、5回投げて4回成功させる。	手の甲を上に保つ。
17	カラサイビィッチ	ゴールラインのアウターから10mよりワンバウンドシュート。	
18	ボールを指先回転	ボールを駒のように指先で回転、5秒は保つ、2回続けて成功させる。	

ジャンプ

NO	種　　目	内　　容	備　　考
19	つま先立ちジャンプ	両足をそろえ、やや広げつま先で約1mバックジャンプ、膝を軽く曲げジャンプで戻る。5回	
20	ホップシュート	反対足ジャンプシュート	

ルンド氏の所属しているクラブの35チームのプランである。このような練習のマニュアルを作成し、年齢に応じてそれぞれのメニューができ上がっている。

たとえば、9～10歳の女子の指導に関してはそのマニュアルに従い指導できるし、13～18歳の男子であれば、また、その年齢のマニアルに従い指導している。

また、この際には先ほどの用語による技術・戦術分類の中からどの年齢ではどれが必要かを検討し、作成することが重要となる。

サッカーの選手は道路や裏庭でテクニック練習をして一流になることは有名である。バスケットでも自分一人で練習し一流となる例も多い。したがってサッカーやバスケットボールでは自分一人で技術を高めていくことが大変重要となる。デンマークではハンドボールにおいても同様の考え方である。そして、そのような自分一人での練習のためのトレーニングを確立することも重要となる。

デンマークでは個人の技術のレベルの判定をするための3段階評価のテストを作成している。これは銅メダル・銀メダル・金メダルというように評価し、パス、フェイント、シュートなどのスキルテストである。子供たちは練習してできるようになれば指導者に見てもらい、全部合格し終了すればそこにサインをしてもらう。そして子供たちは自慢げに親にそれを見せる。このように自分一人一人で練習して達成すればより高いレベル技術を目指すことが可能となる。

前掲の表は、デンマークのこのスキルテストの内容を指導委員会の稲生委員が訳したものです。また、より詳しくお知りになりたい方は今年中には各県の指導委員宛にデンマークのスキルテストのビデオのコピーを送付いたしますので各県の指導委員までご連絡ください。

今回の講習内容は、1995年日本ハンドボール協会出版の「WORLD HANNDBALL 1995」の108Pからの「ハンドボールの専門用語」の部分を参考に進めております。この本に関してもまだ若干の残部がありますので、購入ご希望の方は(1冊2000円)日本ハンドボール協会までご連絡ください。

第39回全日本学生選手権大会組み合せ

[日程]1996年11月5日〜10日　　[場所]熊本県熊本市

[男子]予選トーナメント

推薦・順位	大学	No.	組
(西日本1位・関西)	大阪体育大学	1	A組
(東日本5位・関西)	国際武道大学	2	A組 ①
(九州学生連盟推薦)	東和大学	3	A組 ①
(関東学生連盟推薦)	日本大学	4	B組 ②
(西日本5位・関西)	桃山学院大学	5	B組 ②
(東日本4位・関東)	筑波大学	6	B組
(西日本3位・東海)	名城大学	7	C組
(東日本5位・関東)	順天堂大学	8	C組 ③
(関西学生連盟推薦)	近畿大学	9	C組 ③
(東北学生連盟推薦)	仙台大学	10	D組 ④
(西日本5位・東海)	中京大学	11	D組 ④
(東日本2位・関東)	法政大学	12	D組

組	No.	大学	推薦・順位
E組	13	福岡大学	(九州・西日本2位)
E組 ⑤	14	国士館大学	(関東・東日本5位)
E組 ⑤	15	愛知教育大学	(東海学生連盟推薦)
F組 ⑥	16	函館大学	(北海道学連推薦)
F組 ⑥	17	京都産業大学	(関西・西日本5位)
F組	18	中央大学	(関東・東日本3位)
G組	19	大阪経済大学	(関西・西日本4位)
G組 ⑦	20	日本体育大学	(関東・東日本5位)
G組 ⑦	21	松山大学	(中四国学連推薦)
H組 ⑧	22	金沢工業大学	(北信越学連推薦)
H組 ⑧	23	中部大学	(東海・西日本5位)
H組	24	早稲田大学	(関東・東日本1位)

予選リーグ各組の1位が準決勝リーグへ進出。A〜D組が準決勝リーグI組、E〜H組が準決勝リーグII組で、各組の1位同士で決勝戦、2位同士で3位決定戦を行う。

[女子]予選トーナメント

推薦・順位	大学	No.	組
(東日本1位・関東)	東京女子体育大学	1	ⓐ a組
(関西学生連盟推薦)	大阪教育大学	2	ⓐ a組
(東北学生連盟推薦)	東北福祉大学	3	ⓑ b組
(西日本4位・九州)	福岡大学	4	ⓑ b組
(東日本3位・関東)	日本体育大学	5	ⓒ c組
(東海学生連盟推薦)	中京大学	6	ⓒ c組
(北海道学連推薦)	北海道女子短期大学	7	ⓓ d組
(西日本2位・関西)	武庫川女子大学	8	ⓓ d組

組	No.	大学	推薦・順位
e組 ⓔ	9	筑波大学	(関東・東日本2位)
e組 ⓔ	10	福岡教育大学	(九州学生連盟推薦)
f組 ⓕ	11	茨城大学	(関東学生連盟推薦)
f組 ⓕ	12	中京女子大学	(東海・西日本3位)
g組 ⓖ	13	日本女子体育大学	(関東・東日本4位)
g組 ⓖ	14	岡山県立大学	(中四国学連推薦)
h組 ⓗ	15	金沢大学	(北信越学連推薦)
h組 ⓗ	16	大阪体育大学	(関西・西日本1位)

予選リーグ各組の1位が準決勝リーグへ進出。a〜d組が準決勝リーグI組、e〜h組が準決勝リーグII組で、各組の1位同士で決勝戦、2位同士で3位決定戦を行う。

ハンドボール競技場の歴史に見る変遷

越智　武

◎1906年当時の競技者と競技場

競技者はFW7、HB5、FB3、GK1の計16名で、競技場の広さは30m×50m、ゴールは2m×3m、ゴール・エリアは4m×7mの長方形。

50m（サイドライン）
（ゴールライン）30m
4m
7m（ゴールエリア）
4m
ゴール
2m
7m
3m

ゴール
3m
2m

競技者数・競技場の広さ、ゴール・エリアは逐次改められ、現在（11人制）にやや近いルールになったのは第1次戦争後であった。

◎1918年

国立体育研究所の教官、フレデリック・クヌッドセン氏が室内ゲームの規則を発表、首都コペンハーゲンで盛んに行った。

◎1938年（昭和13年）室内コートのルール

6m～7m
3m
初投線
中央線
初投線
30m～50m側線
5m～6m
決勝門
2.1m
3.6m
15m～25m

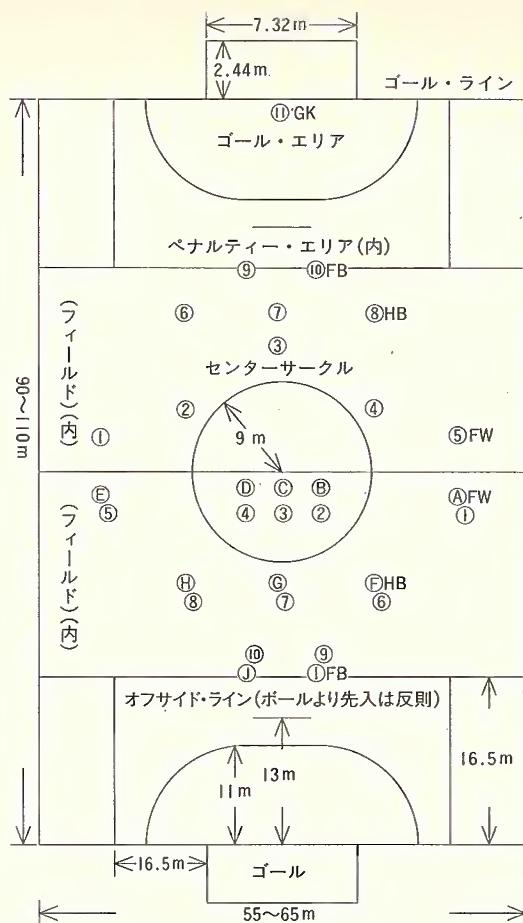
端線は昭和13年当時での室内ルール

◎1947年（昭和22年）競技場（11人制）のルール

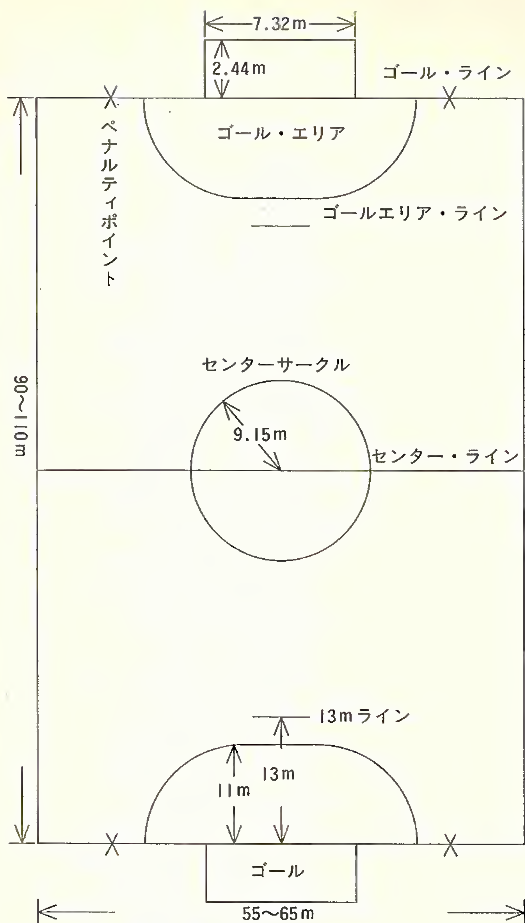
7.32m
2.44m
ゴール・エリア
ペナルティポイント
センターサークル
9.15m
センターライン
サイドライン90m～110m
13mライン
11m
13m
ゴールライン55m～65m

（注）女子と少年のゴールエリアは10m
女子と少年は1952年サイドライン70m～90m、
ゴールライン40m～50m

◎1936年(昭和11年)版ルールによる競技場(11人制)

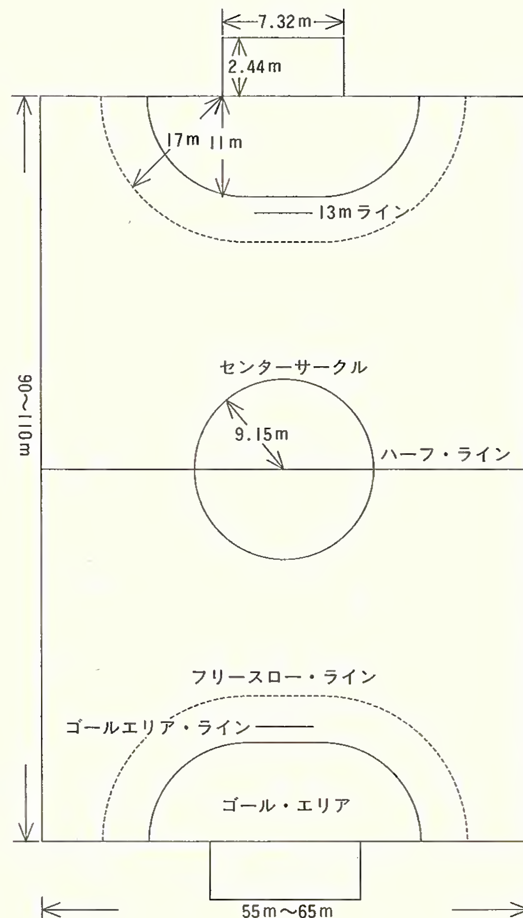


◎1947年(昭和22年)版ルールによる競技場(11人制)

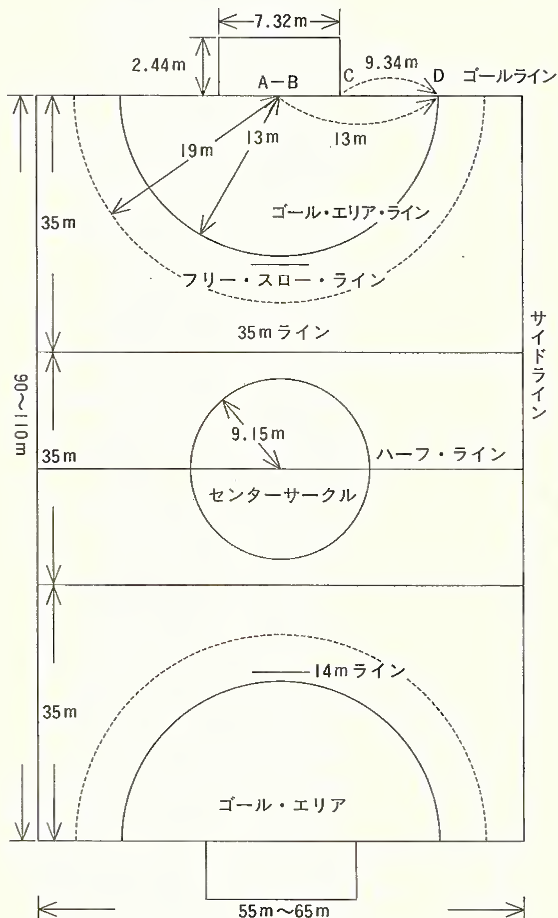


(注)女子と少年のゴールエリアラインは10m。
(注)女子と少年は1952年(昭和27年)にサイドライン70~90m、ゴールライン40~50mとされた。
(注)オフサイド線は、GKとプレイヤーの数との関係に存る。

◎1954年(昭和29年)版ルールによる競技場(11人制)



◎1957年(昭和32年)版ルールによる競技場(11人制)



35mライン内にての7人制ハンドボール競技にと存って
フィールドプレイヤー6人の攻防に存った。

東日本学生選手権大会

●優勝●

男子は早稲田大　女子は東女体大

【概評】

男子はここ数年、地方勢の台頭により予選リーグから熱戦が展開されているが、今年度も関東の一部リーグ勢にどのように挑むかが注目された。

予選リーグで日体大―函館大、順天堂大―仙台大、国際武道大―金沢工大がそれぞれ注目されたが、仙台大、金沢工大が善戦したものの関東勢の壁を破れず、決勝トーナメントは関東勢で争われる事にとなった。

1回戦は、春季優勝の中央大、同4位の法政大が順当に勝ったが、エース野村が不在の国士館と左腕フローター武藤の復活した早稲田の対戦は、常に先手を取った早稲田が、須藤の好リードから所などが活躍し1点差で勝ち上がった。筑波大―日体大は、先手を取った筑波大が逃げ切った。

準決勝は、阿部などの活躍で先手を取った法政大に、エース中川で追い上げる中央大が、同点・勝ち越し時の7mスロー失敗もあって追いつけず、久しぶりに法政大が決勝にコマを進めた。早稲田―筑波大は、左腕武藤の復活と右腕エース高田の両フローター陣が久しぶりにそろった早稲田が、先手先手を取って前半で引き離し、後半、小川友、工藤で追いかけた筑波大を振りきった。

決勝は、早稲田―法政大の初めての対戦となったが、早稲田がGK黒川の好守を背景に、須藤のゲームメイクで栃谷などが打って、安定した試合運びを見せ、小山・阿部などがよく動き、全員ハンドで追いすがる法政大を突き放し4年ぶり5度目の優勝を飾った。

女子は、関東勢が第1回大会ら4位までを独占しているが、本年度も強く、シード校が順当に勝ち上がった。

決勝トーナメント1回戦は東女体大―日体大、筑波大―日女体大の対戦となった。東女体大―日体大は、春季リーグ不振で4位に落ちた日体大の立て直しが注目されたが、梶田、児島両エースを軸に、幅広い攻撃、学生界No.1と言われる遠藤の好守で、安定したチーム力を見せる東女体大が圧勝した。筑波大―日女体大戦は、春季リーグで日体大を破り久し振りに3位になった日女体大が左腕茂木をはじめスピードのある攻めで、阿部をはじめ世界学生参加の全日本学生選手を多数擁する筑波大に善戦したが、惜しくもパワー負けした。

決勝は、前年と同様に東女体大―筑波大の争いとなった。滑り出しは互角の展開で推移したが、20分過ぎから青戸などで連取した東女体大がペースを握り、後半村上その他で追いかけ、一時は1点差まできわどく追った筑波大を振り切って3年ぶり10回目の優勝を飾った。（＊各試合のスコアーは前号を参照ください）。

（優秀選手）

▽男子

黒川　博之（早稲田大）
須藤　武志（早稲田大）
栃谷　則史（早稲田大）
小山　宏樹（法政大）
阿部　展行（法政大）
中川　善雄（中央大）
小川　友康（筑波大）

▽女子

遠藤　ひろみ（東女体大）
梶田　華恵（東女体大）
児島　愛（東女体大）
阿部　真澄美（筑波大）
大井　昌美（筑波大）
宮本　奈芳美（日体大）
茂木　利恵子（日女体大）

西日本学生選手権大会

大体大が男女とも優勝を飾る

【男子決勝】

大体大　20（9―10、11―9）19　福岡大

序盤からお互いに相手の出方をうかがってか、固い立ち上がりだった。大体大が竹下のロングシュートなどでペースをつかみかけると福岡大も田中らの活躍で譲らず、逆に1点のリードを奪い前半を終了した。

後半に入っても両チームともGKが頑張りを見せ、白熱した攻防を繰り広げるが、大体大が堅い守りからの速攻に冴えを見せ、リードを奪うと追いすがる福岡大を振り切り、タイムアップとなった。見応えのある一戦であった。

【女子決勝】

大体大　17（7―11、10―4）15　武庫川女大

序盤から武庫川が堅い守りから速攻を繰り出しペースをつかむかに見えたが、大体大はGK友貞が踏ん張り、簡単に得点を許さない。しかし、武庫川は琴野の強シュートなどで加点し、武庫川4点リードで前半を終了した。

後半、大体大は1年生GK田中の好守と裕の活躍で17分に同点に追いつくと、21分には逆転する。武庫川も指野らで猛追するが、大体大GK田中の大活躍により追いつくことができず、タイムアップとなった。

（＊各試合結果は前号を参照ください）。

（優秀選手）

▽男子

池辺　健二（大阪体育大）
荒木　誠司（大阪体育大）
倉　昌宏（大阪体育大）
山之内　賢一（福岡大）
田中　慎一（福岡大）
西村　耕二（名城大）
木村　淳（大阪経済大）

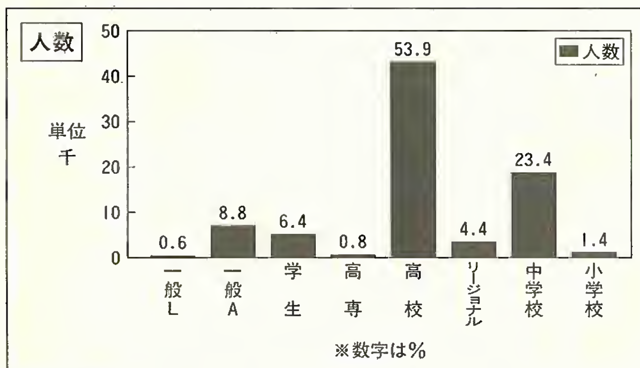
▽女子

池原　みゆき（大阪体育大）
友貞　由美（大阪体育大）
辻　賀奈子（大阪体育大）
琴野　由子（武庫川女子大）
新村　裕美（武庫川女子大）
釣川　真美（中京女子大）
広瀬　輝美（福岡大）

平成8年度登録表

※1996年9月末現在

都道府県	一般L		一般A		学生		高専		高校		リージョナル		中学校		小学校		合計	
	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数
北海道	0	0	22	289	24	348	1	19	65	1165	4	70	0	0	0	0	116	1891
青森	0	0	14	249	4	53	1	26	26	460	0	0	2	39	0	0	47	827
岩手	0	0	15	233	5	68	1	28	47	1006	11	152	31	768	0	0	110	2255
宮城	0	0	9	119	9	169	2	41	46	1075	1	15	20	493	0	0	87	1912
秋田	0	0	8	117	4	43	1	16	13	273	0	0	4	121	0	0	30	570
山形	0	0	7	100	1	20	0	0	20	399	0	0	4	76	0	0	32	595
福島	1	15	9	128	3	40	0	0	41	721	0	0	0	0	0	0	54	904
茨城	0	0	12	177	6	90	0	0	74	1072	13	175	43	948	3	87	151	2549
栃木	1	16	6	99	3	42	0	0	21	348	0	0	21	550	0	0	52	1055
群馬	0	0	9	142	1	18	0	0	24	418	3	46	0	0	0	0	37	624
埼玉	2	38	21	334	7	89	0	0	115	2052	2	25	44	988	1	20	192	3546
千葉	0	0	10	140	10	174	0	0	67	1013	15	264	38	602	3	64	143	2257
東京	3	49	18	281	43	779	1	11	179	1972	31	585	0	0	0	0	275	3677
神奈川	0	0	26	365	7	110	0	0	183	2806	36	576	61	969	0	0	313	4826
山梨	1	18	8	123	6	98	0	0	33	551	9	129	0	0	2	40	59	959
新潟	0	0	6	79	5	86	1	25	12	261	1	12	0	0	0	0	25	463
長野	0	0	10	141	3	45	0	0	30	510	0	0	13	289	2	50	58	1035
富山	1	17	14	186	4	44	1	16	39	677	0	0	27	615	0	0	86	1555
石川	1	19	10	172	4	61	1	10	28	522	0	0	0	0	0	0	44	784
福井	1	16	6	77	3	35	1	17	20	376	0	0	11	310	1	20	43	851
静岡	0	0	14	191	4	64	1	15	49	1003	4	56	4	149	0	0	76	1478
愛知	5	86	16	229	24	451	1	22	273	5454	46	474	204	4677	4	162	573	11555
三重	2	39	15	202	2	28	2	27	41	688	0	0	12	330	7	80	81	1394
岐阜	0	0	12	189	6	87	1	26	67	1291	5	72	56	1182	1	25	148	2872
滋賀	0	0	5	81	5	64	0	0	25	482	0	0	0	0	0	0	35	627
京都	0	0	13	192	16	181	1	17	53	874	20	229	0	0	0	0	103	1493
大阪	2	33	14	198	26	431	1	25	174	2205	1	15	23	492	5	78	246	3477
兵庫	0	0	10	145	15	215	1	23	103	1754	7	94	0	0	0	0	136	2231
奈良	0	0	10	131	6	67	1	20	31	415	4	33	21	264	0	0	73	930
和歌山	0	0	9	126	2	30	1	22	28	435	0	0	20	470	0	0	60	1083
鳥取	0	0	5	15	1	14	1	26	16	276	0	0	3	58	0	0	26	389
島根	0	0	3	43	1	16	1	19	12	199	0	0	0	0	0	0	17	277
岡山	0	0	15	195	7	94	1	19	63	1155	3	41	0	0	0	0	89	1504
広島	3	54	9	151	5	75	1	16	24	385	5	80	7	156	1	39	55	956
山口	1	16	15	197	2	25	2	40	38	645	1	12	34	592	0	0	93	1527
香川	0	0	4	57	4	55	0	0	24	417	0	0	28	534	2	31	62	1094
徳島	0	0	3	46	5	62	0	0	10	175	0	0	1	17	0	0	19	300
愛媛	0	0	6	118	3	46	0	0	37	779	0	0	0	0	0	0	46	943
高知	0	0	5	84	2	16	1	13	19	275	2	29	11	190	0	0	40	607
福岡	0	0	10	153	16	308	2	53	54	1076	0	0	21	384	0	0	103	1974
佐賀	1	15	3	34	0	0	0	0	11	178	0	0	4	87	3	56	22	370
長崎	0	0	5	87	2	27	0	0	28	596	0	0	20	413	5	79	60	1202
熊本	2	38	4	70	5	72	2	34	53	995	0	0	0	0	0	0	66	1209
大分	0	0	6	88	2	33	0	0	22	362	3	48	12	235	16	208	61	974
宮崎	0	0	3	34	2	22	1	15	39	605	0	0	7	117	7	160	59	953
鹿児島	1	18	4	57	3	49	1	24	39	700	4	76	11	183	0	0	63	1107
沖縄	0	0	16	246	5	71	0	0	64	1265	11	148	51	1092	7	115	154	2937
合計	28	487	474	6910	323	5015	34	665	2480	42361	242	3456	869	18390	70	1314	4520	78598



中学校の登録数について

中体連に報告があったチーム数は1577チームありますが、登録用紙未提出が45%もあり、残念です。中体連からも連絡しますが県協会もよろしくお願い致します。

（中体連　真田 元）

日本・スウェーデン国際親善試合開催決定と第21回日本リーグの日程変更のお知らせ

日本ハンドボール協会がスウェーデン男子ナショナルチームを迎えて「日本・スウェーデン国際親善大会」を11月26日(火)～12月2日(月)(名古屋・大阪・熊本)を開催いたします。これに伴い、開催中の日本リーグの日程は下記のように変更になります。

1. 変更となる日程

月　日	開催地	会　場	時間	対戦カード
11月30日(土)	広　島	安佐北区スポーツセンター	15:30	日新製鋼×三陽商会
12月1日(日)	埼　玉	三郷市総合体育館	14:00	大崎電気×大同特殊鋼
〃　〃　〃	愛　知	三好公園総合体育館	15:20	トヨタ車体×中村荷役
〃　〃　〃	高　知	高知県民体育館	14:30	湧永製薬×本田技研

2. 新たに設定される日程

月　日	開催地	会　場	時間	対戦カード
12月25日(水)	愛　知	知立市福祉体育館	14:00	トヨタ車体×中村荷役
〃　〃　〃	埼　玉	高知県民体育館	18:00	湧永製薬×本田技研
12月26日(木)	埼　玉	志木市民体育館	19:00	大崎電気×大同特殊鋼
〃　〃　〃	広　島	日新製鋼呉体育館	18:00	日新製鋼×三陽商会

3. 会場・開始時間が変更になるカード（変更後は下記の通りとなります。）

月　日	開催地	会　場	時間	対戦カード
11月30日(土)	広　島	東区スポーツセンター	14:00	イズミ×シャトレーゼ
12月1日(日)	埼　玉	三郷市総合体育館	13:00	大崎電気×北国銀行
〃　〃　〃	愛　知	三好公園総合体育館	11:30	デンソー×三景
〃　〃　〃	〃	〃	13:30	ブラザー工業×ムネカタ
〃　〃　〃	〃	〃	15:00	トヨタ自動車×北陸電力
12月26日(木)	埼　玉	志木市民体育館	16:00	シャトレーゼ×立山アルミ
〃　〃　〃	〃	〃	17:30	大崎電気×オムロン

(注)上表中「網掛(　　)」の部分が変更個所です。

＊**9月号の訂正**／本誌9月号の3頁の最後に掲載された日程で、「'97 女子世界選手権大会予選」は97年1月～4月、韓国、また「アジアクラブ選手権大会」は96年、イランに訂正いたします。

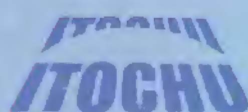
CONTENTS　11月号

11月の行事予定

■日本リーグ
●ジャスコ：北国銀行
　11月2日　三重・四日市市中央緑地体育館
●立山アルミ：シャトレーゼ、大阪ガス：三景
　11月2日　兵庫・大阪ガス今津体育館
●アラコ九州：北陸電力
　11月2日　佐賀・佐賀県総合体育館
●中村荷役：日新製鋼、三陽商会：大崎電気
　11月3日　千葉・船橋市総合体育館
●イズミ：日立栃木
　11月3日　広島・安佐北区スポーツセンター
●オムロン：大崎電気、本田技研熊本：トヨタ自動車
　11月3日　熊本・県立総合体育館
●トヨタ車体：湧永製薬、大同特殊鋼：本田技研
　11月4日　愛知・天白スポーツセンター
●大和銀行：ソニー国分
　11月4日　奈良・生駒市市民体育館
●三景：本田技研熊本
　11月6日　東京・東京体育館
●トクヤマ：日本電装
　11月6日　山口・徳山市総合スポーツセンター
●立山アルミ：北国銀行
　11月9日　富山・三協アルミスポーツセンター
●ジャスコ：大崎電気
　11月9日　三重・ジャスコハンドボール体育館
●オムロン：イズミ　トクヤマ：アラコ九州
　11月9日　山口・岩国市総合体育館
●シャトレーゼ：日立栃木
　11月10日　山梨・塩山市体育館
●イズミ：ジャスコ
　11月14日　広島・東区スポーツセンター
●大崎電気：立山アルミ
　11月16日　埼玉・志木市民体育館
●北国銀行：シャトレーゼ
　11月16日　石川・金沢市総合体育館
●ブラザー工業：大和銀行
　11月16日　愛知・ブラザー体育館
●オムロン：日立栃木
　11月17日　熊本・八代市総合体育館
●ムネカタ：ソニー国分
　11月17日　福島・本宮町総合体育館
●立山アルミ：イズミ
　11月23日　富山・永見市総合体育館
●ジャスコ：オムロン
　11月23日　三重・ジャスコハンドボール体育館
●大和銀行：ムネカタ
　11月23日　大阪・大阪市中央体育館
●ソニー国分：ブラザー工業
　11月23日　宮崎・都城市体育文化センター
●シャトレーゼ：大崎電気、日立栃木：北国銀行
　11月24日　栃木・栃木市総合体育館
●ジャスコ：日立栃木
　11月30日　三重・名張市総合体育館
●オムロン：立山アルミ
　11月30日　京都・京都市体育館
●日新製鋼：三陽商会、イズミ：シャトレーゼ
　11月30日　広島・東区スポーツセンター
●大阪ガス：アラコ九州
　11月30日　兵庫・大阪ガス今津体育館
■第39回全日本学生選手権大会
　11月5～10日　熊本県立総合体育館、熊本市総合体育館
■第2回理事会　11月16日
■日本リーグオーナー会議　11月18日

私たちにNOという商品はありません。

製品から、さまざまな仕組みやノウハウまで、
私たちは目に見えない商品もお届けしています。
国や産業という垣根も越えて、
用意している答えはいつでも、YES。
私たちは国際総合企業、ITOCHUです。



豊かさを担う責任。

伊藤忠商事株式会社

Visit our Internet site at http://www.itochu.co.jp